

社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会

2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

法人の設立・運営の理念を全職員が理解し、利用者への適切な福祉サービスの提供及び法人の独自性を發揮した社会的使命の追求にあたることを基本方針とし、多機能総合福祉施設群としての一体的運営に留意し、キリストの教えに基づき事業を実施した。

特に重点計画としていた次の事項を推進した。

（1）人員の安定的な雇用と定着促進（達成度60%）

新規に作成した法人のホームページと有料求人サイトを積極的に活用したが、2019年4月1日採用の新規学卒者は1名であった。

法人内の職員数は複数の施設で継続して不足があった。法人で定める2019年4月1日付職員配置定数表との比較では、不足する施設があるものの全体では職員充足率が103%であった。

採用・定着委員会において、2018年度に意見具申した求職者向けパンフレットの作成と職員向けハンドブックの作成をそれぞれ、宣伝用付箋の作成とグループウェアへの掲載という形にして進めた。

結果として、2017年度の離職率は非常勤職員含め14.8%が2018年度には14.5%となった。

（2）人材育成のための職員研修の強化

2017年12月から契約した人材育成のためのコンサルタントである田島誠一氏を中心とした研修委員会を2018年度は9回実施した。

新研修体系の事務局案の策定は完了したが、コンサルタントからの提案を盛り込み理事長に新研修体系案として提出するには至らなかった。

事業計画に予定した法人内研修については予定通り実施することができた。また、各施設において施設内研修を行った。

2019年度からの法人内合同研修の担当として施設長1名を選任し内示を行った。

（3）木下記念学園の支援

2018年4月1日から法人の医務監として医師との雇用契約を締結した。但し、9月30日までは非常勤として週に1~2日の勤務で10月1日から常勤としての勤務を開始した。

施設入所を積極的に支援したが30名定員のうち平均入所者13.7名という結果となった。また、2018年度は暫定定員7名となる通知を受けたが、暫定定員の適用除外の特例申請として施設の特殊事情について千葉県を通じ厚生労働省に訴えることを支援し、2018年度の暫定定員の特例が承認された。

（4）地域共生社会に向けた社会福祉法人としての関わりの推進（達成度90%）

2018年度に地域福祉部会（君津ふくしネット、望みの門デイサービスセンター・

ホームヘルプサービス・訪問看護ステーション・在宅サービスセンター、地域包括支援センター）3回を開催し、地域ニーズの拾い出しや地域貢献事業について協議を進めた。

また、2018年度から認知症カフェ機能を有した「門カフェ」を月に1回望みの門紫苑荘内の多目的ルームにて実施し、6回の実績となった。

2 新規実施事項

(1) 外国人技能実習生の導入（達成度0%）

外国人技能実習生として2018年度からフィリピンからの受け入れに限定して、望みの門富士見の里において実習を開始する予定であったが、フィリピン政府の手続きの遅れにより2018年度は日本全体でフィリピンからの技能実習生の受け入れができなかった。手続きが進んだので2019年度からは実習ができる見込みである。

(2) コンサルタント導入による人材育成の強化及び研修制度の見直し（達成度63%）

人材育成のコンサルタントの研修への活用は、施設長研修の講師及び実践発表大会のコメンテーターとして計2回しか実施できなかった。

しかし、研修委員会を9回開催し、研修内容の見直しをコンサルタントが中心となり行った。

(3) 理事長の常駐化（達成度100%）

2018年度から理事長が望みの門ハイムを理事長義務公舎として使用を開始し、法人で常勤する体制が整った。

初年度は、理事長の希望もあって、まずは法人及び諸施設の詳細な働きを理解することに力を傾注することになった。

また、2018年度からの職員の福利厚生の一環として全職員の誕生日に送る誕生カードへの理事長メッセージを全職員に対し実施した。

(4) 施設の老朽化に伴う建て替え計画及び修繕計画の検討（達成度31%）

望みの門学園、望みの門デイサービスセンター及び法人本部機能については2019年度からの移転新築による計画を立案した。

他の施設の建物については、建築年月日と耐用年数を示し常務会（理事長、副理事長、常務理事）について検討課題として取り上げ、継続協議としている。

(5) 職員給与の見直し（達成度100%）

①給与表の一部改定

最低賃金に抵触する基本給1等級1号俸、2号俸をそれぞれ500円、200円増額し給与規程「別表1職能給表」を改定した。

②特殊業務手当及び資格手当の改定

保育士及び児童指導員に対応する資格手当の支給と個別対応職員として配属された職員に特殊業務手当を支給することとし、給与規程「別表2諸手当」を改定した。これにより、特殊業務手当及び資格手当の整合性を図った。

(6) 福利厚生の充実（達成度 100%）

2017年度の改善提案を元に経営会議等で検討された福利厚生の充実の一環として、職員全員を対象に誕生日に商品券1万円の支給と誕生日カードのプレゼントを実施した。誕生日カードには理事長の直筆でのメッセージ付きのものとした。

3 継続実施事項

2017（平成29）年度以前からの継続実施事項として次の事項に取り組んだ。

(1) 人事管理

①職員研修

職員の意欲の喚起、のぞみ会理念の職員への浸透、職員の知識・技術の向上、職員の福祉意識の向上等を目指し内部職員研修を随時見直し、研修時間及び内容の充実を図った。PC技能の研修を上級コースに加え初級コースも増設し実施した。

また、外部職能団体が主催する研修を効果的に活用し、職員の各ステージに合わせた研修内容に計画的に派遣、参加させた。

但し、計画に掲げた従来の研修体系を大きく見直すことはできず研修委員会の開催による現状把握と課題抽出に止まった。

②人事考課制度

人事考課制度を活用し、優れた人材の確保と育成に繋がるように努めた。また、目標管理と面接に重点を置き各職員の労働意欲の向上を図った。

③キャリアパス制度と職階制度の効果的運用

2010年度に導入したキャリアパス制度と職階制度の運用を継続し、職員が身に付けるスキル、受けるべき研修、取得すべき資格を周知してその結果が評価につながり職員の意欲向上につながるよう努めた。

④資格取得奨励

職員の資質向上を図るため資格取得を奨励し、これを支援した。特に介護支援専門員や社会福祉主任用資格等の法定配置を必要とする職種に必須となる資格は、勉強会を開催する等の対策を各施設で実施した。

資格要件となる研修の受講には、積極的に職員を派遣した。

また、社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士、管理栄養士、介護福祉士等の上級資格取得に挑戦するよう職員に周知を図った。

これらの支援として職務専念義務免除規程、資格取得取り扱い規則（取得に係る費用弁償の内規）を活用した。

(2) 経理関係

法人全体として収入額が減少し、支出額が増加したことにより収支差額が大きく減少した。赤字事業の収支の改善に努めたが未だ一部の事業が赤字の解消には至っていない。特に望みの門木下記念学園は暫定定員の特例が認められ、定員分の事務費を受給できたが、医務監の配置等により大きく支出が収入を超過する結果となった。

①支払業務の効率化

施設の数も増え、支払集計業務が煩雑となっている。集計方法の改善及び変更を行

うことにより、支払業務の効率化を図った。取引業者の一元化及びそれによる削減については実施できなかった。口座名義を理事長名に統一することを順次進めた。

②財務会計システムの効率的運用

2016年度で導入した財務会計システムの更なる活用を目指し、会計担当者のシステムスキルの向上を図った。向上することにより財務情報の集計及び分析能力の向上につなげた。

③会計処理の共通化及び意識の向上

月次の事務員会議を2018年度も継続して実施した。意識の共有化、会計処理の統一化及び共通問題の解決を図る。加えて、会議を利用し事務員の会計知識向上に努め、会計基準からの収支アプローチを行う。また、2018年度も意識・情報共有化の為に、グループウェア及びメールの活用を継続した。

④決算書類作成及び決算事項チェックの強化

決算マニュアルにより書類作成能力の強化を図る。また、決算マニュアルチェックシートによって、決算処理のチェック強化を継続した。

また、新会計基準への移行後に出ている問題点を見直してゆき、より正確な決算書作成に努めた。

(3) 諸規程の見直し

現在施行されている諸規程の実態及び法令等に合致しているかを確認し、整理した。また、職員が働きやすい職場を目指して新たな制度や法定を上回る制度を検討して規程を隨時見直した。

結果として、「定款」、「定款細則」、「就業規則」、「給与規程」、「経理規程」、「資金運用規程」、「役員等報酬規程」、「防災規程」の改定、内規については「施設等における事故賠償等規則」、「契約職員取扱い規則」、「資格手当に関する取り扱い規則」、「公用自動車取扱い規則」の改定を行った。

(4) 福祉学校（介護職員初任者研修）

従来のアンケート結果に基づき、改善点を盛り込み1回の研修を実施した。

また、当法人を就職先として斡旋する等の人員確保の面からも当研修の活用を図ったが、2018年度の福祉学校修了者の就職者は0名だった。地域企業や行政にも積極的に働きかけ受講生を募ったが、全体的な受講者は定員20名に比して8名（うち職員5名）と低迷している。

(5) パソコン活用の推進

ホームページの積極的活用、職員のパソコンスキルの向上、法人内のパソコン増台、eメールアドレスの拡充、インターネット環境の整備、データの適切な管理等を推進する。併せて給与システムと連動した職員情報の管理ソフト及びグループウェアソフトを活用して事務の効率化を図った。

2017年度導入した新バックアップシステム及びグループウェアソフトについては、バックアップソフトの活用は不十分で課題が残った。グループウェアは利用に関するアンケートを実施し、見直し・改善を図り職員の利用率向上に努めた。

(6) ISO認証資格

法人全体へISOを拡大し、安定的運用に努めた。認証を受けている施設の継続した認証取得を進めた。また、業務との統合による実効性の向上と業務負担の軽減に取り組んだ。

2018年度は、2015年版規格への移行審査を受け、認証取得できた。

(7) 地域交流

バザーや運動会等の行事や地域の清掃活動等の地域行事への参加を通じて地域との交流を図り、地域との信頼関係及び社会的立場を確立し地域社会に貢献できる法人を目指した。併せて地元企業との協働や地元ボランティアの積極的受入れを推進した。

望みの門コミュニティセンターについては地域交流の場として引き続き活用した。

また、新たに認知症カフェ機能を持つ「門カフェ」を立ち上げ、新たな地域交流の場所として実施することができた。

4 理事会及び評議員会の開催状況

(1) 理事会

①第184回理事会

開催日 2018（平成30）年4月19日（木）

場 所 望みの門紫苑荘 多目的ルーム

出 席 理事8名 監事1名

議 事 第1号議案 天羽養護老人ホーム入所者の民間施設移行に伴う申請の件

②第185回理事会

開催日 2018（平成30）年5月25日（金）

場 所 望みの門紫苑荘 多目的ルーム

出 席 理事9名 監事2名

報 告 天羽養護老人ホーム入所者の民間施設移行に伴う申請の結果について
監事監査報告

議 事 第1号議案 2017（平成29）年度事業報告の件

第2号議案 2017（平成29）年度補正予算の件

第3号議案 2017（平成29）年度決算の件

第4号議案 定款変更の件

第5号議案 定時評議員会議案の件

第6号議案 組織の一部改編について

第7号議案 重要人事の件

そ の 他 ①富津市金谷所在の旧旅館の売買について

③第186回理事会

開催日 2018（平成30）年11月14日（水）

場 所 望みの門紫苑荘 多目的ルーム

出 席 理事9名 監事2名

議 事 第1号議案 望みの門新生舎屋根及び外壁塗装の件

第2号議案 富津市金谷所在の旧旅館購入の件
第3号議案 富津市川名所在の土地（現在借用中の田の一部）購入の件

④第187回理事会

開催日 2019（平成31）年3月18日（月）
場所 望みの門紫苑荘 多目的ルーム
出席 理事9名 監事2名
報告 法人・施設の現況報告
2018（平成30）年度千葉県指導監査の結果報告
新生舎借用の田の経過報告
議事 第1号議案 2018（平成30）年度補正予算の件
第2号議案 2019年度事業計画の件
第3号議案 2019年度予算の件
第4号議案 諸規程改定の件
第5号議案 望みの門学園及びデイサービス等建て替え工事の件

（2）理事会への各理事、監事の出席状況（全4回中）

①4回出席 木下宣世 井本義孝 西尾建 坂井栄一 小林義則
簾昭博 田尻隆 南純（監事）
②3回出席 木下勝世 足達裕昭（監事）
③2回出席 長島成幸 福原好子

（3）評議員会

①第44回

開催日 2018（平成30）年6月11日（月）
場所 ホテルポートプラザちば 4階「房総」
出席 評議員10名
議事 第1号議案 2017（平成29）年度 事業報告の件
第2号議案 2017（平成29）年度 決算の件
第3号議案 定款変更の件
第4号議案 役員等報酬規程改定の件

5 監査の実施状況

（1）監事監査

2017（平成29）年度の利用者サービス及び事務処理の監査
実施日 2018（平成30）年5月17日
対象 法人本部及びのぞみ会全施設、全事業

(2) 千葉県君津健康福祉センター監査

2017（平成29）年度の業務に対する指導監査

実施日 2019（平成31）年1月24日、25日

対象 法人、望みの門学園、望みの門楽生園、望みの門紫苑荘（短期入所含む）、
望みの門かづさの里、望みの門方舟乳児園、望みの門木下記念学園、
望みの門富士見の里（短期入所含む）、

(3) 君津健康福祉センター（保健所）巡回指導

給食施設の衛生管理及び栄養管理に関する状況把握のための巡回指導

2018（平成30）年10月18日 合同厨房、望みの門富士見の里

6 職員の採用退職

(1) 職員総数302名（うち非常勤職員82名） ※2019.3.31日現在

(2) 2018（平成30）年度中の職員の採用退職

（※2018.3.31退職者含み、2019.3.31退職者含まず）

採用	退職	再雇用
46名（12名）	51名（14名）	8名（2名）

（ ）内非常勤再掲

7 事務処理の状況

(1) 機関誌発行

法人の情報発信を機関紙「望みの門」として後援団体・個人、関係団体・個人等に年3回発行した。第77号（4／1）、第78号（8／1）、第79号（12／1）

(2) 軽井沢の家利用状況

月 利用	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ日数	3	6	0	12	12	9	3	0	4	0	0	0	49
延べ人数	6	14	0	38	30	45	20	0	20	0	0	0	173

(3) 年間行事等実施状況

実施月	内 容
4月	1日 機関誌発行・HP更新 2日 辞令交付式、研修委員会 19日 第184回理事会（望みの門紫苑荘） 23日～24日 新任職員研修（望みの門紫苑荘）12名 25日～27日 ISO審査

5月	1日～2日 職員健康診断
	7日 研修委員会
	12日 環境整備側溝清掃、介護職員初任者研修講座開校
	17日 監事監査
6月	2日 望みの門バザー、ピーターパンの会総会（ホテル千成）
	4日 研修委員会
	11日 第44回評議員会（ホテルポートプラザちば）
	25日 ISOマネジメントレビュー
7月	2日 研修委員会
	7日 京葉後援会総会
	24日 法人主査研修（望みの門紫苑荘）17名
8月	1日 機関誌発行・HP更新
9月	3日 研修委員会
	4日～5日 チャプレン研修（お宿ひるた）12名
	20日 実践発表大会（君津メディカルスポーツセンター）77名
10月	9日 研修委員会
	6日 第49回地域交流スポーツ大会
	16日 望みの門京葉後援会研修（望みの門木下記念学園）
	18日 富津地区合同防災訓練
	20日 介護職員初任者研修講座修了式
11月	25日 ピーターパンの会児童福祉セミナー（望みの門木下記念学園）
	3日 望みの門かずさの里感謝祭
	14日 第186回理事会（望みの門紫苑荘）インフルエンザ予防接種
	21日 インフルエンザ予防接種
12月	19日～25日 収穫感謝祭展示期間
	1日 機関誌発行・HP更新
	20日 研修委員会
1月	8日 合同クリスマス会
	1日 元旦礼拝
	7日 研修委員会
	17日 京葉後援会委員会・新年会
	24日～25日 千葉県指導監査（29日富津地区・30日かずさ地区）
2月	29日～30日 チャプレン研修（紀伊乃国屋）11名
	4日 研修委員会
3月	4日 研修委員会
	18日 第187回理事会（望みの門紫苑荘）

経営会議：幹部会議以外の毎月第一月曜日 幹部会議：4, 6, 8, 10, 12, 1, 3月の第一月曜日

施設長・副施設長合同会議、部長会議：毎月第三月曜日

常務会：毎月開催 門カフェ：毎月第三水曜日（10月より）

8 施設整備

(1) 本部施設整備

①台風被害紫苑荘アンテナ交換工事 358千円 (全て保険対応)

くんぶ防災株式会社

②台風被害学園ガラス、グレース天井はがれ等修繕工事 358千円 (全て保険対応)

伊東建設興業株式会社

③駐車場(旧運動場)フェンス作成工事 883千円

鳶工業

(2) 本部・各拠点区分 100万円以上の支出 (工事、物品購入 等)

①法人本部拠点区分

a 新駐車場(学園横)側溝工事 1,177千円

鳶工業

b 富津地区電話交換機 2,160千円

宮川電気通信工業株式会社

②東京望みの門

建物内装改修工事 7,385千円

住友不動産株式会社

③望みの門紫苑荘拠点区分

温冷配膳車 1,442千円

ホシザキ関東株式会社

④望みの門新生舎

建物外壁塗装 3,649千円

滝瀬 保夫

⑤望みの門デイサービスセンター拠点区分

日産セレナ 1,050千円

関東自動車工業株式会社

9 資金概要

事業活動収入は17,275千円、事業活動支出は55,369千円で、2017年度と比較すると収入と支出共に減少であった。当期資金収支差額は6,330千円とプラスとなっている。2017年度と同等の繰入額を想定していたが、2019年度は、法人全体で2018年度より収支が厳しい状況になると推測される為、本部への繰入金の増額をおこなった。また、収支の増減理由（特記事項）は下記のとおりである。収支状況が厳しい拠点に対しての貸付や繰入、固定資産の取得のために支出をしている。

(1) 事業活動収入

①寄附金 7,637千円 (2017年度10,833千円、主に大型寄附)

②雑収入 7,683千円 (2017年度8,728千円、主に台風被害保険料)

(2) その他の活動による収入

①ピーターパンの家貸付金回収 14,333千円

②繰入金収入 61,000千円（2017年度59,000千円）

(3) 事業活動支出

- ①人件費 39,673千円（2017年度38,472千円）
- ②事業費 2,400千円（2018年度より会計基準科目に変更）
- ③事務費 13,295千円（2017年度19,973千円）

(4) 施設整備等支出

- ①駐車場フェンス 883千円
- ②駐車場側溝 1,177千円
- ③電話交換機 2,160千円
- ④職員住宅給湯器及び浴槽 347千円

(5) その他の活動支出

- ①訪問看護ステーションへ貸付 5,000千円（2017年度7,000千円）
- ②望みの門ハイムへ貸付 5,000千円
- ③ホームヘルプサービスへ貸付 1,500千円
- ④ピーターパンの家への貸付 15,266千円（2017年度14,333千円）

10 法人全体の各施設の苦情受付件数、不適合サービス、解決済み件数及び未解決件数

苦情受付施設	苦情件数	不適合 サービス	解決済み 件数	未解決 件数
法人事務局	1	0	1	0
望みの門学園	0	1	1	0
望みの門紫苑荘	0	1	1	0
望みの門ピーターパンの家	0	1	1	0
合 計	1	3	4	0

※軽微なものを除く

住宅型有料老人ホーム 望みの門ハイム 2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

社会福祉法人が経営する公益事業である住宅型有料老人ホームとして、2011年2月1日事業開始以来、利用者の意志と人格を尊重し、キリストの教えに基づき利用者の立場に立った最適な介護・福祉サービスを提供すると共に小規模ホームの特性を最大限に発揮して、各種生活支援サービス等の提供を行った。

また、安定的かつ継続的な事業運営に努め、利用者の生活を最優先とし、生き生きとした生活を送ることが出来るよう、利用者主体・自立支援の理念の下に事業を推進した

事業を運営するにあたり、地域との結びつきを重視し、関係市町村を始め、他の事業者、その他の保健・医療・福祉サービスを提供する者との緊密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めた。

特に重点計画としていた次の事項について積極的推進を図った

(1) 望みの門ハイムの今後の展望と事業のあり方（達成度70%）

類似の有料老人ホームサービスが地域内に増加している中、小規模有料老人ホームとして求められるサービス内容を具体的に調整し、その向上に取り組んだ。一方で、他のサービス事業への転用についての検討も始めた。

(2) 現利用者への安心で快適なサービスの提供（達成度80%）

季節ごとの行事等を実施し、利用者の生活満足度の向上を図った。従来から改善の要望が強かった食事面では、週に1～2回、簡単な一品を独自に調理提供し、利用者の満足度の向上を図った。介護サービス面では法人内の関連事業所（望みの門在宅サービスセンター、望みの門ホームヘルプサービス、望みの門訪問看護ステーション）との連携をさらに強化し、サービス内容の充実を図った

(3) 従来の事務的な業務の流れの見直しと効率化

既存作業手順書の一部を見直し、改訂することにした

2 新規審査事項

特になし。

3 繼續審施事項

利用者主体と高齢者の尊厳を絶えず念頭に置きつつ、快適で安定、安心の生活が営めるよう配慮した。また自立した生活が継続出来るよう契約内容、千葉県有料老人ホーム設置運営指導指針、介護保険法、その他関係法令に則り円滑な事業運営を引き続き行った

4 定員及び利用者数

定員（10居室・11名）

※4～3月1室法人にて借り上げ

5 職員体制

() 内非常勤再掲、2019年3月31日現在

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
管理者	1名	1名	常勤兼務
支援員	2名（1名）	3名（2名）	常勤兼務1名、非常勤1名
計	3名	4名	

※法人事務局職員及びハイム内に併設の在宅サービスセンター職員の協力を得ながら運営した。

6 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間行事計画

月	行事等
4月	買い物送迎サービス（10・20・30日）、外食送迎サービス（30日）
5月	買い物送迎サービス（9・21・30日）、外食送迎サービス（30日） 生活短歌の会（22日）
6月	買い物送迎サービス（11・20・29日）、外食送迎サービス（29日）
7月	買い物送迎サービス（17・20・30日）、外食送迎サービス（30日） 七夕祭り飾り付け（4日）、生活短歌の会（19日）
8月	買い物送迎サービス（21・29日）、外食送迎サービス（29日）
9月	買い物送迎サービス（10・19・28日）、外食送迎サービス（28日） 避難訓練（5日）、敬老茶話会（17日）、生活短歌の会（18日）、
10月	買い物送迎サービス（9・19・31日）、外食送迎サービス（31日） お好み昼食会（14日）
11月	買い物送迎サービス（9・21・29日）、外食送迎サービス（29日） 生活短歌の会（19日）、感謝祭飾り付け（19日）
12月	買い物送迎サービス（10・19・26日）、外食送迎サービス（26日） 大掃除（20日）、クリスマス感謝祝会（27日）
1月	買い物送迎サービス（10・22・31日）、外食送迎サービス（31日） 生活短歌の会（21日）
2月	買い物送迎サービス（11・19・28日）、外食送迎サービス（28日）
3月	買い物送迎サービス（11・21・28日）、外食送迎サービス（28日） 雛祭り飾り（1日）、生活短歌の会（19日）、運営懇談会（27日）、

(2) 日課表

7：30 朝食
11：30 昼食
17：30 夕食

(3) 健康管理

インフルエンザ予防接種（11月14日）
通院送迎サービス（毎月6～10日程度）
通院付き添いサービス（毎月）
日常血圧管理（毎日）
服薬管理（毎日）

7 施設整備

- (1) 1,000千円以上 なし
(2) 1,000千円未満 1件、計62千円

8 資金概要

事業活動収入が11,442千円、事業活動支出が12,491千円であった。2017年度と比して4,103千円の減収及び3,619千円の費用増となった。

結果として2018年度は、本部経理区分から5,000千円の借入を行い、△1,009千円の資金収支差額となった。

婦人保護施設 望みの門学園

2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

望みの門学園はキリストの教えに基づき、利用者の意思と人格を尊重し、利用者の立場に立った最適な福祉サービスを提供すると共に、個々が抱える生活上の課題の解決を図り、個々の自立支援計画に基づき事業を実施した。重点計画であった『根拠法である「売春防止法」が制定60周年を迎えるに際して婦人保護施設の在り方も時代とともに変化している。「保護・更生」から「安全確保・寄り添い」と利用者主体の支援が望まれている。学園も利用者主体のサービスを提供する生活の場を目指し事業を計画する。また築後38年が経過し老朽化した施設の建て替えを2019（平成31）年度の実施を目指し、県の担当課と協議を始めたい。』に対しても職員の協力体制のもと事業実施に至った。（達成度80%）

2 新規実施事項

（1）2019（平成31）年度の新施設建設を目指し、県担当課と協議を開始する。

千葉県における施設整備の科目で担当課である児童家庭課と協議をして、2019（令和1）年度～2020年（令和2）年度の事業として内示を受けた。（国の決定は2019（令和1）年6月を予定）（達成度100%）

（2）入所率向上のため利用者の施設内規則の緩和を実施する。

買い物、図書館、映画等の外出を利用者からの申請を受け危険性のない限りで承認することとした。また食事の方法も職員内でプロジェクトチームを構成し、時間、座席、朝食のみ主食の選択（米食、パン食）を利用者の自由とした。このことにより利用者支援サービスの向上に至ったが入所率の向上には繋がっていない。（利用率66.6%より56.6%へ下降）（達成度50%）

（3）就労支援の一環として利用者のパソコン教室を開始する。

不定期で受ける利用者からの質問には逐一答えてきたが、カリキュラムを作り定期的にパソコン教室を実施するまでには至らなかった。
(達成度20%)

3 繼続実施事項

2017（平成29）年度から引き続き、次の事業を実施する。

- （1）自立に向け資格取得・就労支援を促進し、ステップハウスを利用してスムーズに地域移行できるよう支援に努める。
- （2）退所者支援事業の円滑な運営に努める。

- (3) 利用者の心理的側面の支援を強化するために、専門の心理相談員を配置する。
- (4) 年2回開催する県女性サポートセンターと児童家庭課との定期連絡協議会を実施する。

重点支援

就労支援《就労状況》

区分	人 数
一般企業就労者	1名
法人施設内就労者	3名
法人施設内実習者	7名
民間家庭実習者	0名
施設内実習者	4名
施設内活動者	2名
計	17名

自立支援

- ① 退所支援（民間アパート利用0名、帰宅予定0名、ステップハウス利用1名）
- ② 通院支援（自転車利用1名、バス利用5名）

活動支援

- ① ジョブコーチによる就労支援。
- ② ステップハウス事業の利用。

4 定員及び利用者数

定員 30名（現員 17名）

名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
稼働率	66.6%	63.3%	63.3%	63.3%	63.3%	60.0%	56.6%	56.6%	56.6%
	1月	2月	3月	年間平均					
稼 働 率	56.6%	56.6%	56.6%	60.0%					

5 職員体制（ ）内非常勤再掲

職種	人員		備考
	現員	計画員数	

施設長	1名	1名	常勤（専任）
事務員	1名	1名	常勤（専任）
看護士	1名	1名	常勤（専任）
栄養士	1名	1名	常勤（専任）
心理士	1名	1名	常勤（専任）
支援員	6名	6名	常勤（専任）
調理員	3名（1名）	3名（1名）	常勤（専任）、非常勤1名
計	14名（1名）	14名（1名）	

6 利用者サービスの実施状況

（1）年間行事

月	行 事	事 務 等
4月	(20日)春季外出	(16日)女性サポートセンター連絡会議 (23~24日)のぞみ会新任職員研修会
5月	(12日)富津地区環境整備	(17日)監事監査
6月	(2日)望みの門バザー	(12日)女性サポートセンター職員見学
7月	(23日)下谷教会訪問	(4~6日)全国婦人保護施設等連絡協議会総会
8月	(23日)納涼会	(6~7日)日本福祉施設士会全国セミナー
9月	(17日)教会音楽祭	(13~14日)民営施設長会
10月	(6日)望みの門スポーツ大会 (10~12日)社会見学旅行	(22日)全社協厚生事業団体常任委員会
11月	(22日)OB会	(7~9日)全婦連指導員研修会
12月	(8日)望みの門クリスマス会 (21日)学園クリスマス会 (22日)富津教会キャンドルサービス	(1日)千葉市民クリスマス(千葉市役所) (21日)ワックスがけ (20日)消防設備点検
1月	(1日)元旦礼拝	(24日)県指導監査
2月	(3日)節分の会	(14~15日)民営婦人保護施設長会議
3月	(3日)ひな祭りの会	(29日)全国婦人保護施設等連絡協議会役員会

(2) 日課表

時 間	内 容
6 : 30	起床・洗面・清掃
7 : 30	朝食
9 : 00	連絡会・ラジオ体操
9 : 15～11 : 45	活動
12 : 00	昼食
13 : 00～14 : 45	活動
15 : 00～18 : 00	ティータイム・自由時間
16 : 00～21 : 00	入浴・自由時間
18 : 00	夕食
18 : 30～22 : 00	自由時間
22 : 00	就寝

(3) 健康管理

① 利用者健康診断

月	健 康 管 理
5月	(1～2日)身長・体重・血圧・検尿・腹囲・血液一般・胸部X線間接撮影
6月	(18日)問診・聴診・触診
11月	(21日)季節性インフルエンザワクチン接種
11月	(12日)身長・体重・血圧

* 日常支援：通院送迎、付き添い、体重・血圧・服薬管理

7 施設整備

なし

8 資金概要

事業活動収入は 105,240 千円、事業活動支出は 88,457 千円で、收支差額が 3,321 千円であり、予定通り建物建設積立金として 5,000 千円の積立を実施した。前年度と比べ同水準であった。

養護老人ホーム 望みの門樂生園

2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

望みの門樂生園は、キリストの教えに基づき、利用者的心身の状況に応じ適切な介護福祉サービスを提供する。その為、個々の支援計画を策定し自立支援を中心としたサービスを推進し安心かつ快適な生活を送ることが出来る施設を目指した。社会環境の変化に伴い、福祉ニーズが多様化、複雑化し、既存の制度では十分な対応ができない方に対する支援の必要性が高まっている中、利用者主体・自立支援の理念の下に事業を推進した。

- (1) 地域の人に関する課題を解決するため、積極的に入口支援を実施して行政機関等との連携を実施。（達成度 88%）
- (2) 入所者の多様性に併せた対応能力を持つと共に地域の高齢者や事業所との連携を強化し、高齢者の生きがいづくりを実施。（達成度 80%）
- (3) 養護老人ホーム本来の機能である自立支援を積極的に実施し地域移行に取り組むと共に、地域移行が困難な方についても伴走型支援を実施。（達成度 90%）
- (4) 1～3 の項目を前年度より継続的に進めることにより各自治体との連携強化実施。（達成度 88%）

2 新規実施事項

- (1) 年2回の利用者健康診断（採血・採尿） 5・10月に実施 （達成度 100%）

3 継続実施事項

2017（平成29）年度から引き続き（1）～（8）を実施

- (1) 近隣市町村及び地域の福祉ニーズに積極的に対応実施
新規入所者 11名、退所者 5名（内在宅復帰 1名）
- (2) 要介護者の社会参加の促進
 - ①小グループでの外出機会の提供
施設近隣で外出の機会提供実施
 - ②車椅子利用者の社会参加促進
富津イオンにて昼食・買物等、外出提供実施
- (3) 個別支援計画の適切な運用
 - ①利用者がわかりやすい計画、立案
利用者出席のカンファレンス実施
 - ②利用者の変化に応じたサービスの見直しと文書化
入退院、食指低下等、状態変化時に記録、見直しの検討実施
- (4) 余暇活動を通じて残存能力の維持
 - ①庭を有効利用し園芸活動（堆肥を利用して）
利用者職員協働にて畑にて野菜、果物の園芸活動実施
 - ②利用者の自主活動の活性化実施
施設内外清掃の実施
 - ③クラブ活動の充実
歌クラブ等、複数のクラブ活動・利用者間交流実施
- (5) 職員の資質向上
 - ①施設外研修を活用し専門的スキルの向上

- 社会情勢を踏まえた専門スキルの修得
 ②国家資格取得
 介護初任者研修取得（1名）
 ③定期的な施設内研修による、サービス向上、統一
 職員が講師となり年7回内部研修の実施

- (6) 利用者と職員の協働体制
 ①利用者主体の自治会運営
 自治会から利用者・職員間での意見交換会へ変更実施
 ②行事計画に参加
 季節に応じた行事へ利用者全員参加実施
- (7) 職場環境改善の積極的取組
 ①利用者が過ごしやすい環境
 各居室及び共有部分の朝夕の巡回、環境改善実施
 ②職員が働きやすい職場
 毎月職員会議開催、計画的有給休暇取得の実施
- (8) 残菜ゼロに向けて残菜原因の追究、分析、改善
 嗜好調査を反映し献立実施

4 定員及び利用者見込み者数

入所者定員 50名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	84%	84%	85.8%	87.3%	87.8%	87.9%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
90.9%	90.6%	89.5%	88%	88.9%	95.8%	88.4%

5 職員体制

楽生園における職員配置

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
施設長	1名	1名	
副施設長	0名	1名	常勤（生活相談員兼務）
事務員	1名	1名	
生活相談員	2名	1名	
主任支援員	1名	1名	
支援員	8名 (内非常勤3名)	9名 (内非常勤4名)	
看護員	2名 (内非常勤1名)	2名 (内非常勤1名)	
栄養士	2名 (内非常勤1名)	2名 (内非常勤1名)	
調理員	7名 (内非常勤4名)	5名	
合計	24名 (内非常勤9名)	24名 (内非常勤6名)	

6 基本的な利用者サービス方針及び計画

(1) 年間行事計画

月	行事予定	事務等予定
4	花見、消防自主避難訓練	法外援護金受給、HP 更新、ISO 更新審査
5	端午の節句、健康診断	収入申告
6		事務費算定資料提出、消防設備点検
7	七夕	
8	納涼会	法外援護金受給、HP 更新
9	敬老会	防災訓練
10	運動会、健康診断	看護学生実習受入
11	感謝祭、インフルエンザ予防接種、消防自主避難訓練	防災訓練
12	クリスマス会、自治会忘年会	法外援護金受給、HP 更新、消防設備点検
1	新年礼拝、お楽しみ会	
2	節分	新年度事業計画
3	桃の節句、消防自主避難訓練	受水槽清掃、市県民税、確定申告
毎月	誕生者外食	E V保守点検、電気設備点検、血圧測定、淨化槽清掃点検、カンファレンス

(2) 日課表

時間	利用者共通	要介助利用者
6 : 0 0	起床	起床準備着替え等
8 : 0 0 ~ 8 : 3 0	朝食	
9 : 0 0 ~ 1 0 : 0 0	掃除	
9 : 3 0 ~ 1 0 : 0 0	ラジオ体操	
1 0 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0		介助者配茶
1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 0 0	レクリエーション	介助入浴（火・金）
1 2 : 0 0 ~ 1 2 : 3 0	昼食	
1 3 : 0 0 ~ 1 3 : 3 0		清拭（入浴日以外）
1 3 : 0 0 ~ 1 5 : 3 0		介助入浴（火・金）
1 3 : 3 0 ~ 1 4 : 3 0	クラブ活動（隨時）	
1 4 : 0 0 ~ 1 5 : 3 0	一般入浴（月～土）	
1 8 : 0 0 ~ 1 8 : 3 0	夕食	介助者配茶
1 8 : 4 5 ~	余暇時間 消灯準備	
2 1 : 0 0	消灯	就寝準備着替え等

(3) 健康管理

月	利用者	職員

5月	健康診断 体重、血圧 検尿（蛋白、糖、潜血） 血液（貧血、肝機能、腎機能、血糖） ※医師の判断により心電図、胸部レントゲン必要に応じて対象者実施	春の健康診断 胸部レントゲン、聴力、体重、血圧 採尿（蛋白、糖、潜血） 血液検査（貧血、肝機能、腎機能、血糖） 心電図、腹囲（40歳以上）
6月	嘱託医による診察（聴、問、触診）	嘱託医による診察（聴、問、触診）
10月	健康診断 体重、血圧、検尿（蛋白、糖、潜血） 血液（貧血、肝機能、腎機能、血糖） 胸部レントゲン 嘱託医による診察（聴、問、触診）	
11月	インフルエンザワクチン接種	夜勤従事者健康診断 血液検査（貧血、肝機能、腎機能、血糖） 検尿（蛋白、糖、潜血） 体重、血圧、腰痛検査 嘱託医による診察（聴、問、触診） 全職員インフルエンザワクチン接種

7 施設整備

(1) 建物修繕

① 1階居室前エアコン取り替え	934千円
② 2階居室前エアコン取り替え	934千円
③ 食堂エアコン取り替え	331千円
④ 消防設備修繕	507千円
⑤ 正面玄関自動ドア更新	529千円
⑥ 廉房冷蔵庫	831千円
⑦ 净化槽ポンプ交換工事	205千円
⑧ 給湯室内給湯器取付工事	241千円

⑤～⑧については、計画していなかったが、故障により緊急要したため、補正予算にて実施した。

8 資金概要

2018（平成30）年度、事業活動収入 129,024千円、事業活動支出 110,060千円、事業活動資金収支差額 18,964千円。2017年度（平成29）年度比、事業収入 3,982千円減、事業活動支出 7,431千円減。拠点区分間繰入金（本部繰入金）8,000千円、建物建設積立金4,000千円実施。

介護老人福祉施設（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）
特別養護老人ホーム望みの門紫苑荘（望みの門ショートステイサービス）
2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

望みの門紫苑荘は、キリストの教えに基づき、老人福祉法、介護保険法及び社会福祉法に従い、利用者の人間性を尊重し一人ひとりに合わせた施設サービス計画を作成し、安心・安全に生活できるように介護、支援に取り組んだ。また、地域福祉に寄与すべき福祉施設として、地域の老人福祉に貢献できるよう近隣の事業所と連携し緊急性の高い利用者を短期入所生活介護で受け入れサービス提供に努めた。長期入所者の入院も例年より少なく年間平均97%の稼働率となった。そして、動画研修サイトを活用して施設内での研修に役立て資質の向上に努めた。（達成率80%）

2 新規実施事項

特になし

3 継続実施事項

2017（平成29）年度から引き続き下記の事項を実施した。

（1）ISO9001・2015の効果的活用

利用者満足向上の為、個別要求事項に配慮した施設サービス計画を確実に実施。年2回のアンケートにより利用者の意見をサービスに反映した。

作業手順書の見直しを行い業務の統一化を図った。

（2）介護サービスの充実

要介護状態の軽減や悪化防止の為、専門職による指導と生活リハビリで機能維持に努めた。

（3）職員の資質向上

介護福祉士の国家試験に3名が挑戦し全員合格となった。

施設内研修について毎月テーマを決めて実施し資質の向上に努めた。

（4）年間を通じて感染症予防

手洗い、うがいの励行により感染症予防に努め最小限に止めた。

（5）経費削減

水道光熱費の削減に努めたが、例年とほぼ同水準だった。

4 定員及び利用者数（2019年3月31日現在）

定員長期入所50名 短期入所10名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	96.6%	96.9%	97.7%	96.6%	96.6%	95.9%

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
稼働率	94.5%	95%	95.6%	99.1%	105%	99.6%	97.2%

5 職員体制

() 内非常勤再掲

職種	人 員		備考
	現員	計画員数	
施設長	1名	1名	
生活相談員	1名	1名	
介護支援専門員	1名	1名	
事務員	1名	1名	
看護員	4名	3名	常勤1名入職
介護職員	16名(5名)	18名(5名)	常勤1名入職、3名退職
栄養士	1名	1名	
調理職員	4名(2名)	4名(1名)	1名入職、1名退職
用務員	1名(3名)	1名(3名)	
機能訓練指導員	1名(1名)	1名(1名)	看護員兼務
計	30名(11名)	31名(10名)	

6 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施行事

月	実施行事	事務等
4月	4.買い物外出 10.横浜長老教会慰問	
5月	6.節句(輪投げ大会) 23.お茶会	
6月	2.バザー 24.野の花の家読み聞かせ	9.厨房大掃除 28.消防設備点検
7月	11.お茶会 25.納涼会(家族会)	
8月		21.ISO講座
9月	12.お茶会 15.敬老会 20.横浜長老教会慰問	18.富津地区合同防災訓練 20 実践発表大会
10月	6.地域交流スポーツ大会 27.紫苑荘運動会 30.遠足	14.厨房大掃除 24.防災訓練
11月	21.お茶会	14.インフルエンザ予防接種

12月	8.合同クリスマス会 24.大佐和教会キャロリング、紫苑荘クリスマス会	5.消防立会防災訓練
1月	1.新年お楽しみ会	9.厨房大掃除 24.県指導監査
2月	3.節分	
3月	3.ひな祭り	27.貯水槽清掃 28.簡易水道水質検査
毎月	リフレクソロジー、散髪	浄化槽点検、エレベーター点検 内部研修、各種委員会

(2) 日課表

	共通サービス	個別サービス	主な日常生活上の活動
4:00	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	
	朝の挨拶	朝の挨拶	
6:00	整容、日常着への着替え	洗面、身支度	起床・離床
	配茶	牛乳・お茶の提供	水分補給
8:00	朝食	朝食	朝食
	入浴 (週2回)、排泄介助	特殊浴、一般浴、おむつ交換	入浴
10:00	配茶	お茶・おやつ	水分補給
	リハビリテーション	ラジオ体操・嚥下体操	リハビリテーション
12:00	昼食	昼食	昼食
	排泄介助	トイレ誘導	
14:00	リネン交換 (週1回)、排泄介助 昼寝、レクリエーション	リネン交換、おむつ交換 昼寝、レクリエーション	
	配茶	お茶・おやつ	水分補給
16:00	排泄介助	トイレ誘導、おむつ着用	
	離床、移動	離床、移動	
18:00	夕食 排泄介助	夕食 トイレ誘導、おむつ着用	夕食
	巡回(60分毎)	巡回と様子観察	就寝
20:00	巡回 (60分毎)排泄介助	おむつ交換、様子観察	
	巡回 (60分毎)	巡回と様子観察	消灯
22:00	巡回 (60分毎)	巡回と様子観察	
	巡回 (60分毎)	巡回と様子観察	
24:00	巡回 (60分毎)	巡回と様子観察	
	巡回 (60分毎)	巡回と様子観察	
2:00	巡回 (60分毎) 排泄介助	おむつ交換、様子観察	
	巡回 (60分毎)	巡回と様子観察	

(3) 健康管理

月	健康管理
4月	27日 春の健康診断

6月	18. 25 日 内科検診
9月	4. 7. 11. 14. 18. 21. 25. 28 日老人健診（心電図、レントゲン、問診）
10月	14. 21 日 秋の健康診断 2. 5. 9. 12. 16 日老人健診（心電図、レントゲン、問診）
11月	6 日インフルエンザ予防接種

他、定期通院、定期投薬、夜間緊急対応、日々の医療処置を実施

7 施設整備

温冷配膳車 1, 442千円

8 資金概要

2018年度、長期入所者の入院が例年より少ない年度だった。また、入退所についても比較的スムーズに行うことが出来た。その為長期入所の空きベッドを利用する短期入所者が減ったことにより、短期入所の稼働率は2017年度より0.4%低くなった。事業活動収入は235,738千円、事業活動支出は210,199千円、事業活動収支差額は10,625千円で2017年度とほぼ同水準となつた。

介護老人福祉施設（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）
特別養護老人ホーム望みの門富士見の里（従来型多床室・ユニット型・短期入所）
2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

望みの門富士見の里は、創設理念であるキリストの教えに基づき、要介護状態と認定された利用者に対し、介護保険法等の主旨に沿って、利用者の意志及び人格を尊重し、利用者の立場に立ってサービスを提供することにより、利用者がその有する能力に応じ、自律した日常生活を営むことができるよう支援することを目指した。

また、地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、関係市町村、地域の保険・医療・福祉サービスとの密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めた。

具体的取組としては、重点計画として（1）職員のモチベーションアップを目的とした自己啓発研修の参加奨励を図り積極的研修参加がなされた（達成度94%）。また、（2）外国人介護技能実習生の受け入れ及び育成を挙げていたが、出国側の体制が整わず実現できなかつた（達成度0%）。

2 新規実施事項

- （1）外国人介護技能実習生の受け入れ及び育成
1の（2）と同じ。

3 繼続実施事項

- （1）施設機能の完全発揮

介護員の充足を機に施設機能の完全発揮を目的に生活相談員を加配し年間稼働率98%を目指す予定であったが、介護員の余剰が得られず、加配には至らなかつた。この影響もあり、例年以上の年間累計32名の退所に伴う入所対応に影響し年間稼働率94.4%にとどまつた。（達成度96.3%）。

- （2）適正なランニングコストの管理

水道は増加、ガスは減少、電気は使用量が5271kwh減少したが約60万円増加した。

4 定員及び利用者数

- （1）介護老人福祉施設 定員60名（従来型多床室30名、ユニット型30名）
（2）短期入所生活介護 定員10名
（3）介護予防短期入所生活介護（短期入所生活介護に内包）
（4）稼働状況（%）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	97.0	95.7	97.0	95.9	93.9	93.0

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
稼働率	92.6	91.2	95.4	91.8	93.6	95.4	94.4

5 職員体制（3月31日現在）

() 内非常勤再掲

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
施設長	1	1	常勤1名
生活相談員(副施設長兼務)	1	2	常勤1名
介護支援専門員	1	2	常勤1名(介護員兼務)
事務員	1	1	常勤1名
看護員	6(2)	5(2)	常勤4名、非常勤2名
介護職員	30(1)	32(1)	常勤29名、非常勤1名
栄養士	1	1	常勤1名
調理職員	7(1)	7(2)	常勤6名、非常勤1名
用務員	6(5)	7(6)	常勤1名、非常勤5名
機能訓練指導員	2(1)	2(1)	常勤1名(准看護師) 非常勤1名(理学療法士)
合計	56(10)	59(12)	

6 基本的な利用者サービスの実施状況

月	行事	訪問・奉仕	会議・研修・事業	管理・その他
月例	誕生会 外出行事 駄菓子屋喫茶	礼拝、理髪、歯科往診 各種クラブ活動 讃美クラブ 卓球バレー 書道クラブ 折り紙クラブ 他	ケアカンファレンス 個別機能訓練 事故防止・身体拘束廃止委員会 感染症対策委員会 褥瘡予防委員会 フロア・リーダー・全体会議 入所検討委員会	介護報酬請求 エレベーター点検 電気設備点検 浄化槽点検 消防設備点検（年2回）
4月	春の遠足	福幸会、史翠会 (三味線)	幹部会議、理事会 法人新任職員研修	
5月	春の遠足、節句		監事監査、理事会 創立記念式、人事考課	春の健康診断
6月	バザー	夢楽人（歌、踊り）	幹部会議、評議員会 介護等体験受入	
7月	七夕	琴光会（お琴）	介護等体験受入	カーテンクリーニング 消防訓練（自主） 厨房大掃除
8月	納涼会		幹部会議 介護等体験受入	自治会清掃活動 公用車ドライブレコーダー設置
9月	敬老会	夢楽人（歌、踊り） 湊幼稚園敬老訪問	チャップレン研修 実践発表大会	
10月	地域交流スポーツ大会 秋の遠足	ハーラウ・ケオラク・ラ ナキラ（フラダンス）	幹部会議 人事考課 新生舎家族会施設見学	自治会祭り準備 厨房大掃除 保健所巡回指導
11月	湊地区バザー 秋の遠足 競技大会		理事会	消防訓練（自主） 腰痛問診
12月	合同クリスマス会		幹部会議	年末大掃除
1月	元旦礼拝 新年祝賀会		幹部会議 次年度予算計画 県指導監査	消防訓練（自主）
2月	節分		次年度事業計画	浄化槽汚泥抜取 内部 ISO 監査
3月	節句		幹部会議 理事会	地域側溝清掃 消防訓練（立会） 浄化槽水質検査 貯水槽清掃

(1) 年間実施行事

(2) 日課表

	共通サービス	個別サービス	主な日常生活上の活動
4:00	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	
	朝の挨拶	朝の挨拶	
6:00	整容、日常着への着替え	洗面、身支度	起床・離床
	配茶	牛乳・お茶の提供	水分補給
8:00	朝食	朝食	朝食
	入浴 (週2回)、排泄介助	特殊浴、一般浴、おむつ交換	入浴
10:00	配茶 排泄介助	お茶・おやつ トイレ誘導	水分補給
	リハビリテーション	ラジオ体操・嚥下体操	リハビリテーション
12:00	昼食	昼食	昼食
	排泄介助	トイレ誘導	
14:00	リネン交換 (週1回)、排泄介助	リネン交換、おむつ交換	
	昼寝、レクリエーション	昼寝、レクリエーション	
16:00	配茶	お茶・おやつ	水分補給
	排泄介助	トイレ誘導、おむつ着用 おむつ交換	
18:00	離床、移動	離床、移動	
	夕食 排泄介助	夕食 トイレ誘導、おむつ着用	夕食
20:00	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	就寝
	巡回 (30分毎)、排泄介助	おむつ交換、様子観察	
22:00	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	消灯
	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	
24:00	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	
	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	
2:00	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	
	巡回 (30分毎)、排泄介助	おむつ交換、様子観察	

(3) 健康管理 春の健康診断

職員 48名

秋の健康診断

職員 26名、利用者 54名

インフルエンザ予防接種

職員 52名、利用者 55名

他、定期通院、定期投薬、夜間緊急対応、日々の医療処置を実施

(4) 介護

利用者の身体的・精神的特性に配慮しつつ、適切な介護・援助を行い、自立した生活が送れるよう支援した。

(5) 食事の提供

食事は栄養並びに身体状況及び嗜好を考慮し、利用者の自立支援を考慮して可能な限り離床して提供した。

(6) 相談及び援助

利用者及び家族に対して適切に相談に応じるとともに必要な助言・援助を行った。

(7) 社会生活上の便宜の供与等

レクリエーションの機会は、年間を通してほぼ計画通りに実施。また行政機関等の手続きを代行した。

(8) 機能訓練

利用者の心身の状況等を踏まえ専門家の指導を仰ぎながら個別に機能訓練を実施。

(9) 健康管理

必要に応じて利用者の健康保持のための適切な措置を取るとともに、入院が必要な場合は、本人及び家族の希望を勘案して適切な便宜を図った。

(10) 苦情解決

利用者及び家族等の苦情に迅速かつ適切に対応する為、苦情受付窓口を設置対応。

(11) 感染症対策

感染症対策委員会を中心に、新情報の収集と発生・蔓延の予防に努めた。

(12) 事故防止

事故防止委員会を中心に事故の内容報告・分析を行い再発防止に努めた。

(13) 地域との連携

ボランティア受入は概ね計画通り実施

(14) 職員の資質向上

適切なサービスの提供のために職員体制を整えるとともに、職員の資質向上のため積極的に研修参加の機会を設けた。

(15) 非常災害対策

非常災害対策について職員会議等で定期的に職員に周知、避難訓練を適切に実施。更に、災害想定で非常食の炊き出し訓練を実施

(16) 生活相談業務

①施設の存在意義を十分に發揮するため、施設ベッドの空床を可能な限り必要とする方に提供するよう努めたが、1(2)で記した結果となった。

②地域に根差した施設、イメージの良い施設をめざし、入所相談に留まらず、居宅介護に悩んでいる方の相談など入所に関わらない相談業務にも積極的に取り組んだ。

③入所待機者管理、面接、契約、請求など多様な業務を適切に分類し、計画的かつ迅速に行い、効率的な施設運営を目指したが、1(2)で記した結果となった。

④苦情受付担当者として適切かつ迅速な対応に心がけ、情報共有と是正に努めた。特にお客様対応においては、直接対面での対応に心がけた。

⑤施設運営の改善に心がけ、外部情報を積極的に取り込み有効活用した。

⑥利用者はもとより職員のストレスにも十分注意を払い、スーパービジョン等によりストレスの緩和につなげた。

7 施設整備

(1) なし

8 資金概要

事業活動収入は前年比 3,587 千円減の 309,739 千円、事業活動支出は前年比 12,565 千円増の 288,266 千円で、事業活動資金収支差額は前年比約 16,153 千円減の 21,473 千円となった。本部への拠点区分間繰入金を 4,000 千円とし、当期資金収支差額は 2,402 千円で前年比 261 千円減となった。

就労継続支援B型事業 望みの門新生舎

2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

望みの門新生舎は、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」（障害者総合支援法）のもと、キリストの教えに基づき利用者の自立と社会経済活動への参加を促進するため利用者一人ひとりに必要な支援及びサービスを提供するとともに利用者の充実した社会生活の保障を基本方針とし事業を実施した。（達成度80%）

- （1）新規利用者の獲得については、新規利用者は0名、退所者はなかった。定員40名のところ登録者41名で年度を終えた。
- （2）利用者の利用率向上については、出勤率90%を目標とし、年間出勤率は92.8%と目標値を上回った。
- （3）個別支援計画については、4月に個別支援計画を作成し5月に利用者・家族と個別面談を実施した。モニタリングは10月・3月に実施し適宜支援計画の見直しに努めた。
- （4）工賃向上計画に基づいて目標工賃を5,385,500円と設定したが5,325,804円と若干だが目標額に及ばなかった。

2 新規実施事項

新規実施事項としては特になし。

3 継続実施事項

2017（平成29）年度から引き続き下記の事項を実施した。

（1）就労支援事業の充実

「生きる力」「暮らす力」「働く力」を育てることを主眼に置き、職業準備性を高め、基本的労働習慣の確立を図り、就労への意識高揚に努めた。事業運営においては、各就労支援部門が企業経営センスを持って効率的な運営を図り、品質の向上・計画的生産を行い、関係業者及び消費者の信頼確保に努めた。

これまでの店頭販売や各種作品展での売り上げが低迷するなか、JA君津味楽団さだもと店へのパン、クッキーの委託販売に力を入れた。また、引き続きは一とふるメッセ千葉寺店・県庁店とともにクッキーの売上げが順調に推移した。

2018年度 JA君津味楽団さだもと店総売上6,022,991円と若干の伸びを見せた。各種作品展やイベントに参加し新たな販売ルートを開拓した。

①のぞみベーカリーではパン・クッキーの製造販売を通し、その中で個々の課題を明確にし就労に向けて職業準備性を高め、基本的労働習慣の確立を目指し支援にあたった。販路の拡大によって日々の生産量も増加し納品や配達などは他の作業

部門の協力を得て行った。

②エコクラブでは、昨年度の実績から年間計画を立て、野菜・花卉栽培を作業活動の主軸として取り組んだ。なかでも播種・育苗作業に年間を通して取り組むことで安定した作業内容の提供に努めた。天候や気温に左右されることもあり製品としての完成度には課題が残ることとなった。

稲作事業は11年目を迎える事業として定着している。作付け品種をコシヒカリとし昨年度と同様に約20,000m²（2町歩）を作付けした。収量は玄米で6.3トン（105俵）の収量となった。販路としては法人各施設給食用米飯として3月末まで提供することができた。

③おりひめ俱楽部では、織機を使った製品を中心に、使用する材料の仕分けや小物の製作、季節に合わせた製品作りに取り組み、販売実績の高い商品はさらに品質を高められるよう工夫した。紙漉作業を定型的な作業として位置づけ、法人職員用カードとして納品した。各作業部門の体調不良者の受け皿として機能した。

（2）生活支援の充実

その人がその人らしく地域で暮らすことが出来るよう、基本的生活習慣・IADL等の確立を支援の重点に置き、利用者の自立した地域生活を想定し、社会生活技能の習得に向けて支援にあたった。

- ①利用者のニーズに応じて柔軟な送迎サービスの体制で臨み利用率向上に努めた。
- ②挨拶の励行、場に合った服装、所持品の管理、食事マナー等の習得に努めた。
- ③手洗い・うがい・歯みがき等を励行し健康管理を促した。利用者の加齢による身体能力・身辺処理能力の低下が伺え、生活支援への労力が増加傾向となった。
- ④情緒不安定や家庭状況により出勤出来ないケースについては、本人への動機付けや電話相談・来所相談・送迎対応など家庭と連携して支援にあたった。また、精神科受診に同席し、医師・家庭と対応方法について協議を重ねるなど継続して取り組んだ。また、相談支援事業所と連携し新たな生活の場など展開した。
- ⑤原則的に第2・第4土曜日を稼働日とし、就労支援活動のほかに利用者の要望に応じ、レクリエーションを通して日常生活支援・余暇活動支援・その他の社会活動支援にあたった。

4 定員及び利用者数

定員40名 現員41名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	91.4%	91.8%	93.4%	91.0%	89.6%	94.3%

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
稼働率	94.9%	96.1%	92.9%	92.2%	92.4%	93.5%	92.8%

5 職員体制

() 内非常勤再掲

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
施設長	1	1	常勤(専任)
サービス管理責任者	1	1	常勤(専任)
生活支援員	1	1	常勤(専任)
職業指導員	5 (1)	5 (1)	常勤(専任)、非常勤
職業指導員(兼)調理員	1	1	常勤(兼務)
目標工賃達成指導員	1	1	常勤(専任)
事務員	1	1	常勤(専任)
その他	1 (1)	1 (1)	非常勤
計	12	12	

6 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施行事

月	行事	事務等
4月	花見(14) 新生舎家族会総会(21)	機関誌発行(20)
5月	家族・利用者面談(7) 田植(1) 潮干狩り(19)	機関誌発行(20) 個別支援計画書作成
6月	望みの門バザー(2)	機関誌発行(20)
7月	家族会合同バーベキュー大会(28)	機関誌発行(20)
8月	サマーキャンプ(3~4)	機関誌発行(20)
9月	稲刈り(6) 収穫感謝祭(22)	機関誌発行(20)
10月	地域交流スポーツ大会(6)	機関誌発行(22) 個別支援計画モニタリング
11月	感謝祭(3) 社会学習旅行(23)	機関誌発行(20)
12月	合同クリスマス会(8)	機関誌発行(20)
1月	新年会(19)	機関誌発行(20)
2月	手をつなぐ作品展(22~24)	機関誌発行(20)
3月	食事会・買い物(16)	機関誌発行(20) 個別支援計画モニタリング
第3水曜日/月	誕生会	
第2・第4土曜日	レクリエーションを通して日常生活支援、余暇活動支援、他の社会活動支援に取り組んだ。	

(2) 日課表

時 間	内 容
7 : 5 5	送迎車（君津方面・大貫方面）新生舎発
8 : 0 0	送迎車大貫駅発
8 : 3 0	送迎車君津駅発・職員朝礼
8 : 3 0	送迎車（大貫方面）新生舎到着
8 : 5 5	送迎車（君津方面）新生舎到着
9 : 0 0	着替え
9 : 1 5	朝のミーティング
9 : 3 0	午前の作業開始
10 : 3 0	休憩（水分補給）
11 : 5 5	午前の作業終了
12 : 0 0	昼食・休憩
13 : 0 0	午後の作業開始
14 : 0 0	休憩（水分補給）
14 : 4 5	午後の作業終了 清掃 着替え
15 : 2 0	帰りのミーティング
15 : 2 5	送迎車（君津方面・大貫方面）新生舎発
15 : 4 0	送迎車大貫駅着
16 : 0 0	送迎車君津駅着
16 : 0 0	送迎車（大貫方面）新生舎着
16 : 4 5	送迎車（君津方面）新生舎着

(3) 健康管理

日々の健康観察、毎月の体重測定、年2回の定期健康診断等により利用者の心身の状況を適切に把握し支援にあたった。インフルエンザ・ノロウィルス等の感染症予防対策に留意し取り組んだ。

月	健康管理実施状況	
	利 用 者	職 員
4月	体重測定（27）	
5月	体重測定（25） 春の健康診断（1. 2）	春の健康診断（1. 2）
6月	体重測定（28） 医師による診察（18）	医師による診察（18. 25）
7月	体重測定（27）	
8月	体重測定（24）	
9月	体重測定（28）	
10月	体重測定（26）	
11月	インフルエンザ予防接種（14） 体重測定（22）	インフルエンザ予防接種（14）
12月	体重測定（21）	
1月	体重測定（25）	
2月	体重測定（22）	
3月	体重測定（22）	

7 施設整備

(1) 屋根塗装工事

3, 000千円

年度計画にはなかったが経年劣化により美観が損なわれたことから塗装工事を実施した。

8 資金概要

事業活動収入は94,680千円で、例年度と比べ6, 340千円減収となった。これは、今年度実施された報酬単価の改定が大きく影響した為である。事業活動支出は87, 776千円で、施設整備費の超過があったものの人件費の減少により例年度と比べ同水準であった。当期収支差額は4, 738千円であり、例年と比べ4, 790千円の減収であった。今後も報酬単価改定の影響は続くことから事業活動支出に留意するとともに利用者の出勤率の維持、向上と新規利用者の確保を進めたい。また、施設整備のため、移行時特別積立金3, 600千円を取り崩した。

児童自立援助ホーム マナの家

2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

自立援助ホームマナの家は、キリストの教えに基づき、就労自立を目指す児童の相談に応じ、その意志と人格を尊重し利用者の立場に立ち、安定した生活の場として、適切な援助を行った。

特に重点計画として次の事項について推進を図った。

学生及び就労する利用者が20歳を迎えても経済力、社会的適応力において、また地域社会の受け入れ体制に於いても不十分な状況であるため、社会的養護自立支援事業の対象者1名を受け入れ自立のために活用した。（達成率80%）

- (1) 基本的生活習慣の習得に努めたが、居室や身の回りの片付けなど習得出来ない事もあった。
- (2) 全員が毎月予算表、出納帳を作成し、金銭管理の習得が出来た。
- (3) 就労の継続率が高く、社会適応力が向上した。
- (4) チェックリスト及び自立支援計画を作成し、(1)～(3)を支援出来た。

2 新規実施事項

新規実施事項として以下のことに取り組んだ。

- (1) 社会的養護自立援助事業によって20歳過ぎても在寮できるようになった利用者の、退寮後の自立生活を見据えた援助計画をたてた。（達成率100%）

3 継続実施事項

2017（平成29）年度から引き続き、実施した。

- (1) 清潔な居室・栄養士の指導による栄養バランスの取れた家庭的な食事の提供など衣食住生活全般の援助。
- (2) 児童福祉司と一緒に利用者の家族との面談を行ったり、職場の上司や、恋人等の人間関係の相談にのった。
- (3) 保護者として、就学継続や転校の相談のため学校に赴いた。
- (4) 退寮後の地域社会における安定した生活継続のため、来所・給食・訪問・受診同行などアフターケアを行った。
- (5) 緊急保護の必要な退寮生を宿泊、保護し、再出発に向けて援助した。
- (6) 家庭裁判所から委託される女子児童の数の激減により補導受託はなかった。
- (7) 母となった退寮生とそのこどもは、毎月の食事会・外食会に来所し、見守りとケアを継続した。

4 定員及び利用者数

定員 6名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	100%	117%	83%	83%	83%	83%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
83%	83%	67%	33%	50%	83%	79%

5 職員体制

職種	人員		
	現員	計画員数	
管理者	1名	1名	常勤
援助員	5名	5名	常勤3名(内1名育休)非常勤2名
調理員	3名	3名	非常勤
栄養士	1名	1名	非常勤
計	10名	10名	

6 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施行事

月	行事	事務等予定
4月	(7日) 外食とカラオケ	
6月	(2日) 外食会	(11日) 夜間避難訓練
7月	(16日) 外食会	(29日) 庭木手入れ
9月	(15~17日) 軽井沢旅行	(1日) 防災訓練
10月	(13日) 外食会	(21日、27日) バザー
11月	(20日) 外食会	(3日) I L B S バザー (27日) 庭木手入れ
12月	(26日) クリスマス会	
1月	(4日) お正月の外食会	
2月	(4日) 誕生日の外食会	(1日) 防災訓練、夜間避難訓練
3月	(8日) カラオケと外食会	

(2) 日課表

時間	
7:00	日曜日は8:00
出社・就労・登校	
12:00~13:00	昼食
16:00~22:00	入浴
18:00	夕食
21:30	門限(3月から22:00)
22:30	消灯

(3) 健康管理

月	内容
毎月	栄養士による栄養指導
10月~12月	インフルエンザ予防接種

7 施設整備

外線・内線電話交換設備工事 332, 964円
 防犯カメラ設置工事 277, 560円

8 資金概要

事業活動収入は27,797千円、事業活動支出は20,163千円であった。例年度と比べ事業活動収入は10,328千円、事業活動支出は16,784千円の減となった。また、建物の改築等に備え7,000千円積立を行った。

宿泊所 東京望みの門

2018年（平成30年）年度事業報告

1 事業概要

東京望みの門は、さまざまな事情により緊急保護を要する単身の女子及び母子を、福祉事務所などからの相談で受け入れ、キリストの教えに基づき宿泊所・婦人ホームとして援助を行った。杉並区と契約を結び、緊急保護委託者（単身の女子及び母子）の受け入れを行い、さらに退所者のニーズに応じて、継続してアフターケアを実施した。

特に重点計画としていた次の事項を推進した。

携帯電話だけでなく、パソコンを持っての緊急一時保護利用者が増えており、安全保持のためにさらに配慮した。（達成率90%）

- (1) 清潔で安全な宿泊所の提供により、利用者の心身の健康が回復され、次の施設に移ることが出来た。
- (2) 福祉事務所、婦人相談員、女性センター等の関係機関との連携を密にして利用者の安心につながった。
- (3) 増加する退所者へのアフターケアの充実を図り、地域での生活を支援することが出来た。
- (4) 犬の他、亀を連れた方の受け入れを行い、他の保護先がないため喜ばれた。

2 新規実施事項

特になし

3 継続実施事項

2017年（平成29）年度から引き続き次のことを実施した。

- (1) 外壁塗装等の工事を行い、清潔で安全に暮らすことが出来る宿泊所を提供。
- (2) 栄養士の指導により、温かく栄養バランスの取れた食事を提供。
- (3) 利用者の希望に添って、福祉、医療機関と連携して支援。
- (4) 毎月退寮生会をもち、疎遠になりがちな退所者と具体的に関わった。
- (5) さまざまな相談に、電話などの援助（対象52名、1500回）。
- (6) 職員の働きかけにより、退寮生会の場でなされるピアカウンセリングの充実を図った。
- (7) 職員の研修会への積極的参加。

4 定員及び利用者数

定員 5名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数		1名				
		犬1匹				

10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
5名	5名	3名	3名	1名	2名	10名
		犬1匹	犬1匹		亀1匹	犬2匹と亀1匹

5 職員

職種	人員		
	現員	計画員数	
管理者	1名	1名	常勤
援助員	5名	5名	常勤3名内1名育休、非常勤2名
調理員	3名	3名	非常勤
栄養士	1名	1名	非常勤
計	10名	10名	

6 基本的な利用者サービス方針の実施状況

(1) 年間実施行事

月	行事	事務等予定
4月	(28日) オープンハウス(食事・誕生日会)	お便り発送
5月	(19日) オープンハウス(食事会)	お便り発送
6月	(16日) オープンハウス(食事会)	お便り発送
7月	(16日) オープンハウス(食事・誕生日会)	お便り発送
8月	(18日) ロイヤルホスト食事会	お便り発送
9月	(30日) オープンハウス(食事・誕生日会)	お便り発送
10月	(20日) オープンハウス(食事会・誕生日会)	お便り発送
11月	(24日) オープンハウス(食事会)	お便り発送
12月	(15日) オープンハウス(クリスマス祝会)	クリスマスプレゼント発送
1月	(2日) お節とお雑煮の会	お便り発送
2月	(16日) オープンハウス(ロイヤルホスト食事会・誕生日会)	お便り発送
3月	(16日) オープンハウス(食事会・誕生日会)	お便り発送

(2) 日課表

時間	内容
7:00	朝食
12:00	昼食
18:00	夕食
22:00	消灯
入浴は16:00～22:00	

7 施設整備

外壁塗装、屋上物干し台撤去、屋根の葺き替えに7,385千円

8 資金概要

事業活動収入は6,681千円で例年と同水準、事業活動支出は14,588千円となった。例年度と比べ、施設整備を行った為支出が7,795千円増額となった。また、施設整備を行う為に修繕積立金7,300千円の取崩を行った。

通所介護事業望みの門デイサービスセンター

2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

望みの門デイサービスセンターは、キリストの教えに基づき、利用者の意思及び、人権を尊重し可能な限り居宅においてその有する能力に応じ、自立した生活を営むことが出来るよう支援をする。必要な日常生活上の援助による社会的孤立感の解消、機能訓練による心身機能の維持、利用者家族の身体的、精神的負担の軽減を図ると共に、法人理念・基本方針及び、社会福祉法・老人福祉法・介護保険法の基本理念によって事業を実施した。

2018年制度改正では、スケールメリットを活かし、効率の良い事業経営へ政策誘導が行われ、さらに医療と介護の連携強化が課題として示された。2025年の介護職員40万人以上といわれる人材不足に対応するために下記事項を重点課題とし事業を実施した。（達成度40%）

- (1) 職場内研修OJTの開催及び、職場外研修OFF-JTへの積極的な参加（達成度90%）
- (2) 利用者数に応じた人員配置等人件費の精査（達成度50%）
- (3) スキルの高い職員の発掘（達成度40%）
- (4) 木更津市、君津市も視野に入れた関係機関への広報宣伝活動（達成度30%）
- (5) 市外利用開始者エリアからの多数の利用者獲得（達成度10%）

2 新規実施事項

新規実施事項として下記計画したが、方針の変更により実施しなかった。

- (1) フロアエアコン（1台）老朽化による更新（達成度0%）
- (2) ADL維持等加算の適用（達成度0%）

3 継続実施事項

2017年度から引き続き下記事項を継続実施した。

- (1) ISO維持審査に向け、各種記録類の整備
- (2) 職員の教育・資質の向上
- (3) アクティビティの充実及び利用者ADLの維持・向上
- (4) 法人内連携と情報共有

4 定員及び利用見込み数

利用者定員30名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率%	82.0	83.0	87.0	80.0	83.0	88.0

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
稼働率%	86.0	83.3	86.7	85.0	81.7	82.2	84.0

5 職員体制

職種	人員(常勤換算)			備考
	常勤	非常勤	計画員数	
管理者	0.5名	0名	0.5名	0.5兼務
生活相談員	1.5名	0名	1.0名	0.5兼務
看護員	1名	0.3名	1.3名	
介護員	3名	0.5名	5.5名	
送迎員	0名	0.6名	0.6名	
計	6.0名	1.4名	8.9名	

6 基本的な利用者サービス方針及び計画

孤独感・疎外感の解消、閉籠りがちな利用者に対し地域交流、行事、外出を計画する。

(1) 年間行事計画

月	行事予定	事務等予定	月	行事予定	事務等予定
4	苺狩り 買い物外出	機関誌発行	10	紅葉狩り 運動会	避難訓練
5	富津公園散策	H P 更新	11	感謝祭	H P 更新
6	室内運動会・バザー		12	クリスマス・忘年会	機関誌発行
7	夕涼み会	避難訓練	1	初詣外出 新年会	
8	納涼会	機関誌発行	2	節分豆まき	H P 更新
9	敬老会		3	ひな祭り	避難訓練

(2) 日課表

	利 用 者 日 課	職 員 の 動 き
8 : 00	当日準備・利者受け入れ 湯張り・室温・電話対応 迎え開始 手洗い・うがい	お客様対応・迎え準備
8 : 30	バイタル・水分補給 入浴開始	朝会後送迎表に従い送迎開始 残り一電話対応・朝の準備
9 : 15	→機能訓練隨時 →整容(整髪・髭剃り) →隨時トイレ誘導 →機能訓練 入浴終了・嚥下体操→消毒	配茶・着脱籠整理・機能訓練・トイレ誘導・食器準備 入浴介助 入浴準備・誘導・着脱介助 入浴判断・投薬・機能訓練 嚥下体操・消毒・配膳
11 : 30	食事開始	昼食
11 : 45	→静養・リラクゼーション	トイレ誘導・静養室誘導
12 : 30	→一斉体操・レク開始	機能訓練、配茶メニュー確認・体操補助
14 : 00	→機能訓練	ティータイム準備
	ティータイム開始	配茶
15 : 00	本日の振り返り	
: 30	送り車に乗り込み開始	
15 : 50	送り開始	帰宅準備・トイレ誘導
16 : 05	ご家族迎え利用者帰宅	提供票記入・業務日誌、個人記録記入
17 : 30	終業	申し送り、退勤

(3) 健康管理計画

月	健康管理
4	職員健康診断
6	内科検診腰痛検査
9・3	体重測定
11	職員インフルエンザ

7 施設整備

施設整備計画については学園移転新築に伴いデイサービスも含まれる可能性が高い為、出費を極力抑える方針に切り替えた。

- (1) 事業計画フロアエアコン更新 626千円（税込）中止
- (2) 計画はしていなかったが、公用車日産セレナの経年劣化による同型中古車種更新 1,050千円（税込）

8 資金概要

- (1) 介護保険法に基づく通所介護事業業務事業活動収入 75,022千円、事業活動支出 54,010千円。例年度と比べ収入 1,319千円減、支出 7,141千円増であった。
- (2) ADL維持等加算は增收を見込む計画となっていたが、算定要件に該当しないため 2018 年度において加算取得には至らない。
- (3) 建物建設積立金 10,000千円実施。

老人居宅介護等事業 望みの門ホームヘルプサービス

2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

望みの門ホームヘルプサービスは、キリストの教えに基づき、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち、要介護状態等の場合においても、可能な限り居宅においてその有する能力に応じ自立した日常生活が営めるよう、個別ニーズを明らかにし、介護支援専門員からのケアプランに沿った訪問介護計画書を作成、契約に基づいた適切なサービスを実施した。

又、事業を運営するに当たり、当法人各事業所は勿論、地域との結び付きを重視し、行政・他事業所・保健医療サービス及び福祉サービスを供給するものとの連携に努めた。

重点計画（1）新規利用者の獲得では、常勤職員2名、非常勤職員（登録ヘルパー）は10名と人員変更はなかったが、管理者とサービス提供責任者の異動交代があった。訪問回数の増を目指してきたが、月平均の訪問回数317回と目標380回に大きく届かない結果となった。（2）サービスの質の向上では、内外部の研修へ積極的に参加し、ヘルパーの力量向上に力を入れた。そしてサービス計画の見直し・作成、作業手順書の見直しを実施した。利用者主体のより良いサービスを目指し業務の改善を実施した。また、ケース会議を頻繁に開催しヘルパー間の連絡・報告・確認に努め、ミスのないよう徹底を図った。感染、事故等ではなく、軽微不適合に対しては会議で報告、対策を話し合い周知を徹底した。（達成度80%）

2 新規実施事項

介護保険請求が電子化となり、当事業所単独で請求システムを導入。現行の介護保険請求と現在休止中の障害福祉サービス請求の手続き、設定も行い、今後、当法人特定相談支援事業所が地域での活動を開始した際、連携が取れるよう、障害福祉サービスの再開時に不都合がないよう請求システムの準備を整えた。（達成度100%）

3 繼続実施事項

介護保険法、その他関係法令に準拠するとともに、作業手順書の見直しを行った。
非常勤職員の増員は図れなかつたが、誰も辞めることなく非常勤職員人員は現状維持となつた。

4 定員及び利用者数

2017年度の訪問介護の月平均訪問件数は352件に対し、2018年度は月平均317件（35件減）、2017年度の訪問型サービス（予防介護）の月平均人数は17名に対し、2018年度は19.5名（2.5名増）となつた。

常勤、非常勤職員の人数は12名と2017年度と変更なくスタート。しかし、利用者獲得の要の当法人内居宅介護支援事業所の定員一杯が続き、新規利用者獲得につながらない状況となり当事業所にも影響した。また、昨年まで月約116回の訪問回数を請け負っていた当法人内有料老人ホーム利用者の支援が月約40回となり、訪問回数減の一因となつた。その為、他事業所に営業し、新規利用者の獲得に努め、年度後半は盛り上げてきたものの、目標月平均訪問回数には至らなかつた。そのような中でも、地域包括支援センターからの新規要支援利用者の紹介がコンスタントにあり、3月には要支援利用者27名、月平均19.5名と、2017年度の17名より増となつた。

サービス実施状況（4月～12月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
訪問介護述べ件数	321	321	295	237	278	267	326	322	383
予防訪問利用人数	11	13	16	17	17	20	20	21	23

サービス実施状況（1月～3月）/年間平均数

	1月	2月	3月	年間平均数
訪問介護述べ件数	294	365	390	317 件
予防訪問利用人数	24	25	27	19.5 名

5 職員体制

職種	人 員			
	現 員		計画員数	
管理者	1名			1名
サービス提供責任者	1.5名 (内0.5兼務)			1.5名 (内0.5兼務)
訪問介護員	常勤0名	非常勤10名	常勤1名	非常勤13名
計	2名	常勤換算2.3名	2名	13名 (常勤換算3名)

6 基本的な利用者サービスの実施状況

サービスの営業日及び、提供時間は平日、土曜、祭日営業とし、独居高齢者・家族生活の多様化等に伴い、利用者ニーズに応えるべく支援を行った。日曜日に関してはヘルパー人員の都合上控えていたが、利用者のニーズがある時には支援を実施した。

訪問介護計画に沿って、利用者毎の訪問介護業務指示書を再作成し、共通認識を図り、きめ細やかなサービスの提供を実施した。

今後も、利用者、家族の意向を十分傾聴し、主訴を的確に把握し、適切で質の高いサービスを提供していく。

7 施設整備

特になし

8 資金概要

事業活動収支

2017年度 収入 18,618 千円
支出 20,603 千円

2018年度 収入 17,320 千円
支出 19,873 千円

事業活動収支差額

2017年度 △1,985 千円

2018年度 △2,553 千円

中核地域生活支援センター君津ふくしネット

2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

望みの門中核地域生活支援センター君津ふくしネットは、キリスト教の教えに基づき、地域の子ども、障害者、高齢者など誰もが、ありのままにその人らしく、地域で暮らすことができる地域社会を実現するために、24時間365日体制で制度の狭間にある方や複合的な課題を抱えた方など地域で生きづらさを抱えた方に対し、分野横断的に幅広く受け止めて、包括的な相談支援・関係機関のコーディネート・権利擁護・市町村などのバックアップを広域的に高度専門性をもった寄り添い支援をおこない、地域のセーフティネットとして、地域住民の福祉の向上につながることを基本方針とし、重点計画である中核地域生活支援センター事業の充実のため、以下のとおり実施した。（達成度100%）

中核地域生活支援センター事業は2004年10月に開始し14年が経過した。この間、地域には生活困窮者自立相談支援事業所など、様々な相談支援窓口が開設され、地域における中核地域生活支援センターを巡る状況が開設当初と大きく変化してきたことを鑑みた、以下の県実施要綱事業を推進した。

（1）包括的相談支援事業（達成度100%）

地域で生きづらさを抱えた方などを分野横断的に幅広く受け止めて、必要な支援が提供されるよう援助、調整などをおこなった。

（2）地域総合コーディネート事業（達成度100%）

利用者に必要な支援を提供するため、各分野の支援者や支援機関などを調整とともに、互いのネットワークの強化を図った。

（3）市町村等バックアップ事業（達成度100%）

市町村行政や各相談支援機関が相談事例に対応するにあたって、市町村行政などからの求めに応じ、専門的かつ多面的な視点に立った助言などの支援をおこなった。

（4）権利擁護事業（達成度100%）

表面化している権利侵害のみならず、本人や家族が認識していない権利侵害や権利を有しながらも必要な支援を受けられていない場合についても、積極的な把握に努めた。

（5）その他（達成度100%）

地域の実情に合わせて、この事業の目的を達成するために必要な業務をおこなった。

2 新規実施事項

新規実施事項として、富津市生活困窮者自立支援事業・被保護者就労支援事業の受託を目指し、プロポーザルに参加するも落選となった。

（達成度0%）

3 繼続実施事項

2017年度から引き続き、次のことを実施した。（中核地域生活支援センター事業以外）

（1）君津市生活困窮者自立支援事業（生活自立支援センターきみつ）では、君津市の地域福祉の実状把握、当該事業の根拠法に基づく堅実な運用を実行した。

（2）障害者グループホーム等支援事業では、当該事業の県実施要綱に基づく堅実な運用を実行した。

（3）君津圏域四市（袖ヶ浦市・木更津市・君津市・富津市）障害者虐待防止センター

機能一部委託事業では、当該事業の君津圏域四市の委託契約書、仕様書に基づき堅実な運用を実行した。

4 定員及び利用者数

相談件数

実績	2018年度	2017年度	2018年度	対象者件数	比率%
			対象者別件数		
相談件数	5, 143	5, 292	高齢者	138	2.7
月平均件数	429	441	児童	47	0.9
月平均実人数	41	40	障害児者	4,576	89.0
新規相談件数	149	122	その他	382	7.4
			計	5, 143	

5 職員体制

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
センター長			
地域総合コーディネーター	1名	1名	常勤専任
コーディネーター	5名	7名	常勤専任(生困担当4名含)
障害者グループホーム等支援ワーカー	1名	1名	常勤専任
計	7名	9名	

6 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間会議等

4月	・グループホーム等事業連協総会 ・中核連協総会、例会	10月	・中核連協例会
5月	・中核連協例会 ・地域福祉フォーラム運営委員会	11月	・中核連協例会
6月	・中核連協例会 ・ハローワーク障害者雇用連絡会	12月	・中核連協例会
7月	・中核連協例会	1月	・中核連協例会
8月	・中核連協例会	2月	・中核連協例会
9月	・中核連協例会 ・中核事業県市との意見交換会	3月	・君津圏域中核事業連絡調整会議 ・中核連協例会

(2) 年間行事等

4月		10月	・法人スポーツ大会
5月		11月	・木更津こどもまつり
6月	・グループホーム新規開設セミナー	12月	・法人クリスマス会 ・ハローワーク障害者面接会 ・グループホーム講座
7月	・中核大会 in 2018	1月	・グループホーム大会
8月	・木更津港まつり	2月	

9月	・グループホーム講座	3月
----	------------	----

7 施設整備

特になし

8 資金概要

事業活動収入計45,410千円、事業活動支出計43,975千円で、事業活動資金収支差額が1,436千円となった。事業活動収入計は2017年度ほぼ同水準であるが、事業活動支出計は人件費等の増に伴い2017年度より3,321千円増となった。

地域包括支援センター 望みの門富津地区地域包括支援センター 2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

望みの門富津市富津地区地域包括支援センター（以下、包括支援センター）は、法人の定めるキリストの教えに基づき、住民の尊厳ある自立した生活を実現する事を理念として、その地域の特性を活かし、様々な社会資源を有機的に組み合わせ支援体制の充実のため、富津市役所より委託を受け富津市富津地区の日常生活圏域における市の介護・福祉行政の一翼を担う公的な機関として公正中立を旨として事業を行った。

総合相談支援事業については、介護保険申請や介護・予防給付についての相談件数が最も多かった。その中で高齢者虐待・成年後見制度についての相談に関しては、市役所・関係機関と連携・協働して慎重に対応した。また、認知症に関する相談件数も多くなっており、認知症高齢者を介護する家族にとって、身体的・精神的に大きな負担となっている。このことから地域ケア個別会議や認知症家族交流会等を開催し、認知症高齢者が在宅での生活を継続できるよう支援を行い、地域住民への普及啓発として認知症サポーター養成講座を実施し、認知症に対する正しい知識を持つことができるようとした。

このようにさまざまな事例を受け止め、社会福祉士、看護師、主任ケアマネがそれぞれの専門性やスキルを活用して対応した。また、関係機関（行政・民生委員・介護支援事業所・自治会等）とも連携し、必要に応じ地域ケア会議を開催し、地域課題の把握、情報の共有、地域のネットワーク構築等、地域づくりの為の有効な手段となっており、今後も地域包括ケアシステムの構築への取り組みを進めていく。

地域包括支援センターが地域の中で活動を続けていくためには、地域や関係者の方に機能や活動を知ってもらい有機的なつながりを持つことが重要であり、信頼感のあるつながりを築くため地域の行事や会合、健康教室等の参加を積極的に行い、顔の見える関係を築くことに努めた。

重点計画については、高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続する事が出来るようにするために、富津市第7期介護保険事業計画及び富津市高齢者福祉計画に沿って地域の高齢者の心身の健康の保持、保険・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助、支援を包括的に行うため、介護予防・日常生活支援総合事業、包括的支援事業、任意事業（認知症サポーター等養成講座）、多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築、指定介護予防支援事業、その他の業務（高齢者グループホームの運営推進会議への出席・富津市ケアマネジャー協議会事務局業務等）を堅実に実施した。（達成度90%）

2 新規実施事項

（1）認知症施策（達成度90%）

①認知症初期集中支援チームへのサポート

毎月、富津市役所にて開催される認知症初期集中支援チーム員会議へ出席した。

②認知症ケアパスの普及

地域住民に対して認知症ケアパスの周知活動を行った。

③認知症カフェの設置

認知症カフェ立ち上げ支援（1件）・運営支援（6回）を行った。

④認知症に対する地域での見守り体制づくり

地域住民に対して認知症高齢者ささえあいシールの周知活動を行った。

君津木更津認知症対策連絡協議会へ出席した。

(2) 自立支援のための地域ケア会議の開催（達成度 90%）

毎月、富津市役所にて開催される自立支援のための地域ケア会議へ出席し、ケアプランの事例提供及び助言を行った。

3 継続実施事項

(1) 介護予防・日常生活総合支援事業

①介護予防ケアマネジメント … 自立支援型ケアプランを作成した。

(2) 包括的支援事業

①地域ケア会議 … 地域ケア個別会議、地域ケア会議を開催した。

②要援護高齢者の実態把握 … 基本チェックリストを活用し個別訪問し実態把握を実施した。

③介護保険福祉サービス等の申請代行 … 速やかに介護認定申請代行を行った。

④権利擁護に関する相談支援 … 市役所と連携し実施した。

⑤高齢者虐待への対応 … 高齢者虐待について、市役所と連携及び協働しながら訪問等により、事実確認、必要な情報収集を行った。

⑥包括的・継続的ケアマネジメント支援 … 介護支援専門員に対して後方支援を行った。

⑦総合相談支援業務 … 相談に対して的確な状況把握を行い、センター職員の各専門職がチームアプローチにて対応することで相談内容に対して適切な情報及びサービス提供を行った。また必要に応じて関係機関と連携し対応した。

(2018.4～2019.3)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	15	24	14	18	17	18	17	16	17	24	31	21	232

(3) 任意事業

①家族介護教室の開催

認知症を介護する家族が集まり話し合うことで介護負担軽減となった。

②認知症サポーター養成講座の開設

認知症に対する正しい知識を持つよう普及啓発を行った。

(4) 指定介護予防支援事業

(5) その他の業務

4 利用者数

要支援1・2の認定者のうちサービス利用を希望する高齢者に対し効果的かつ適正にサービスを提供できるよう、生活機能の状況や課題に即した自立支援型介護予防ケアプランを作成した。

介護予防給付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
直営	59	60	62	65	66	71	71	76	79	79	82	79	849

委託	36	31	36	38	45	44	41	51	46	49	46	46	509
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

(年間の平均：直営 70 件／委託 42 件)

5 職員体制

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
管理者（兼務）	1名	1名	管理者は相談支援員兼務 社会福祉士、主任介護支援専門員 看護師を各1名 + 当該3資格のいずれか1名が必須
相談支援員 (看護員2名含む)	4名	4名	
事務員	1名	1名	
介護支援専門員	1名	1名	

6 基本的な利用者サービスの実施状況

- (1) 年間実施行事（施設の事務的な実績について）
 - ①地域ケア会議 12 件
 - ②地域ケア個別会議 3 件
 - ③認知症サポーター養成講座 2回 受講者計 175 名
 - ④高齢者教室 依頼により実施 1 件
- (2) 日課表
なし
- (3) 健康管理
富津市いきいき百歳体操 年間 24 回実施

7 施設設備

なし

8 資金概要

富津市からの委託事業収入は 28,912 千円、介護保険事業収入は 4,267 千円、その他の収入は 2 千円となり事業活動収入は 33,181 千円、事業活動支出は 31,923 千円である。事業活動収入については例年度より増加、事業活動支出は例年度より減少している。事業活動収入の増加については、介護保険事業収入の増加として 1,136 千円が主な理由としてあげられる。

訪問看護事業 望みの門訪問看護ステーション 2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

望みの門訪問看護ステーションは、法人の設立・運営の理念であるキリストの教えに基づき、訪問看護に必要な知識・技術・人間性を磨き自己満足に陥ることなく、利用者の権利を尊重し信頼関係の構築に努めた。また、地域の利用者の安心に繋がる社会資源のひとつとしての役割を確立することを目指し当事業所を運営してきた。

2018年4月に発足された富津市認知症初期集中支援チームの一員として望みの門訪問看護ステーションもケアシステムの一員として参加した。地域に貢献する事で望みの門を周知する活動に繋がった。また、地域特性として遠方訪問エリアの拡大（20km超）を実施し効率的な訪問の実施を行った。

公用車を1台購入したが保険外サービス（外出支援）に着手することはできなかった。背景にマンパワーの不足、保険外サービスに関する準備や対策不足がみられた。

機関紙さくら草は年1回の発刊を目指すことができた。

現在、指示書を依頼している病院や医院27ヶ所、医師は34名、居宅介護支援事業所10ヶ所と連携を取っている。介護支援専門員においては君津市社会福祉協議会からの依頼が多い。

重点計画（1）宣伝実施では、地域での研修を通じて保健師・薬剤師・医療相談員・行政職員・訪問介護員等、色々な職種との、「顔の見える関係づくり」をおこなった。（2）赤字脱却に向けた、月平均260回以上の訪問目標では、精銳努力をしてきましたが、事務局本部から借入れを要する状況となった。（3）公用車1台の購入は達成した。
(達成度70%)

2 新規実施事項

新規実施事項として以下のことに取り組んだ。

（1）訪問看護活動実施にあたり公用車不足の解消

公用車（中古軽自動車）購入（100%）

（2）携帯当番の負担に伴う対価措置

オンコール手当（1名あたり月10千円）の支給（100%）

（2）保険外サービスへの取り組みは実施に至らず（0%）

3 繼続実施事項

（1）機関紙さくら草の配布や定期的な挨拶まわり等、広報・宣伝活動の実施

（2）安定した訪問看護の提供 目標：月平均260回の訪問実績回数

4 定員及び利用者数

利用者総数名 128名（開設から永眠等で終了者73名） (単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者総数	100	103	104	107	108	108	109	109	112	116	124	128	
新規	3	1	3	1	0	1	0	3	4	8	4	1	2.4
実績	33	33	34	35	36	36	34	37	41	45	46	44	37.8
訪問回数(回)	206	227	247	243	243	254	248	268	286	264	258	256	250

5 職員体制（常勤換算 3.5 名）

職名	現員	計画数	備考
管理者	1名	1名	訪問看護員と兼務
訪問看護員	3名	3名	常勤（3名）
理学療法士	2名	2名	非常勤（2名）
合計	6名	6名	

6 基本的な利用者サービスの状況

（1）年間実施行事

	訪問看護ステーション内行事	法人・訪問看護ステーション外行事
4月	・職員会議（第4木曜日）	・幹部会議 ・医務会議 ・職員健診 ・新任研修 ・IT委員会 ・認知症初期集中研修
5月	・職員会議（第4木曜日） ・職員検診手伝い	・職員検診・認知症初期集中研修 ・創立記念式典 ・地域福祉部会議 ・望み会バザー委員会
6月	・職員会議（第3木曜日） ・内科検診手伝い ・感謝祭参加	・のぞみ会感謝祭・つなぐ会会議 ・内科検診 ・かずさスキンセミナー ・幹部会議 ・医務会議
7月	・職員会議（第3水曜日）	・事業所挨拶回り ・富津市認知症早期支援研修
8月	・職員会議（第4木曜日）	・幹部会議・医務会議・防災訓練打合せ ・ISO内部監査員養成講座 ・富津市認知症早期支援研修
9月	・職員会議（第4木曜日）	・スポーツ大会会議・つなぐ会会議 ・介護連携会議 ・富津市認知症早期支援研修・集団指導
10月	・職員会議（第4木曜日）	・スポーツ大会・避難訓練・幹部会議 ・感謝祭会議・介護保険更新手続き ・ストーマケア研修 ・医務会議・富津市認知症早期支援研修
11月	・職員会議（第4水曜日） ・インフルエンザ予防接種手伝い	・かずさ地区感謝祭・看護協会研修 ・防災訓練・インフルエンザ予防接種 ・認定看護師セミナー・地域在宅研修
12月	・職員会議（第4木曜日）	・幹部会議、医務会議・地域福祉部会議 ・法人クリスマス会・認知症カフェ ・富津市認知症早期支援研修
1月	・職員会議（第4木曜日）	・元旦礼拝・君津在宅新年会・富津市認知症早期支援研修・認知症カフェ
2月	・職員会議（第4木曜日）	・地域福祉部会議・ISO内部監査 ・医務会議・富津市認知症早期支援研修 ・認知症カフェ
3月	・職員会議（第4木曜日）	・幹部会議・富津市認知症早期支援研修 ・つなぐ会会議 ・認知症カフェ

(2) 実施サービス

- ①病状・障害・日常生活の状態や療養環境のアセスメント
- ②清潔の保持、食事及び排泄等の療養生活の支援
- ③瘡褥の予防と処置
- ④日常生活・社会生活の自立を図るリハビリテーション
- ⑤ターミナル期の看護
- ⑥認知症・精神障害者等の看護
- ⑦療養生活や介護方法の指導・相談
- ⑧カテーテル等の管理
- ⑨その他医師の指示による医療処置及び検査等の補助
- ⑩日常生活用具の選択・使用法の訓練
- ⑪住宅改修の相談・指導
- ⑫サービス事業所等サービス担当者会議

* 営業時間は、月～金曜日の8時30分～17時30分 緊急時の加算及び24時間連絡対応の加算依頼を受けている利用者については、夜間、休日等の対応を実施

(3) 健康管理計画

①利用者に対して

主治医の指示書をもとに訪問看護を提供し、看護計画の見直し及び評価を行い、毎月報告書を持参または郵送し連携を図る。

利用者の病状急変時等においては、主治医に連絡指示を仰ぐか、連絡方法について文書で対応方法を説明する。

7 施設整備

公用車購入 605千円

8 資金概要

業務活動収入計20,510千円、事業活動支出計23,817千円で、よって、事業活動資金収支差額△3,306千円となった。2017年度との比較では収入計2,803千円の増、支出計649千円の減となった。次年度資金不足となる為、本部より借入金5,000千円を受けた。

居宅介護支援事業 望みの門在宅サービスセンター

2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

望みの門在宅サービスセンターは、キリストの教えに基づき、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ちその利用者が可能な限り居宅において、有する能力に応じ自立し日常生活を営むことができるよう、利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて利用者の選択に基づき適切な保険・医療・福祉サービスが、多様な業者から、総合的かつ効率的に提供されるよう支援した。事業の運営にあたっては、市町村、他の居宅介護支援事業者、介護保険施設等の連携に努めた。

常勤職員3名（管理者兼務1名含む）体制と人員の変更はなかったが、年度末に退職者1名があり職員の交代があった。担当利用者の引継ぎについては短い時間の中で行われることとなつたが、クレーム等はなく実施できた。在宅での重度化が進む中、訪問看護、訪問介護などの事業所を通じ地域福祉部の連携の強化を図り、在宅生活が継続できるよう援助活動を行った。ケアマネジメントの充実を図り、外部研修や資格継続に必要な研修を通して職員の質の向上に努め、定員105件、目標値100件（95.2%）を目指し支援を行った。収益の増には繋がらなかつたが、目標値は達成できた。（達成度100%）

2 新規実施事項

新規実施事項として以下のことに取り組んだ。

介護給付費請求に関する省令の一部改正により、ISDN回線の請求からインターネット請求への切り替えに対応し、介護保険請求が電子化となったことを機に在宅サービスセンター事業所単独で請求システムを導入した。これにより請求時の大幅な時間短縮が図られ業務の効率化に繋げることが出来た。（達成度100%）

3 継続実施事項

2017年度（平成29）年度から引き続き居宅介護支援業務を実施した。

- (1) 居宅介護支援
- (2) 介護予防支援
- (3) 介護認定調査
- (4) 代行業務

法令上介護支援専門員1名につき介護支援35件の制限があることから収益増を図る為、年度後半から認定調査件数（委託料5, 142円/1件）増に努めた。

月	4月	5月	6月	7月	8月
調査件数	2件	2件	2件	6件	4件

月	9月	10月	11月	12月	1月
調査件数	2件	3件	4件	2件	5件

月	2月	3月	年間合計
調査件数	9件	8件	49件

4 定員（105件）及び利用者数（目標値100件 95.2%）

月	4月	5月	6月	7月	8月
稼働率	94.2%	102.8%	101.9%	102.8%	101.9%

月	9月	10月	11月	12月	1月
稼働率	100.9%	92.3%	92.3%	93.3%	94.2%

月	2月	3月	年間平均
稼働率	95.2%	92.3%	97.0%

5 職員体制

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
管理者	1名	1名	常勤（兼務）
介護支援専門員	2名	2名	常勤（専任）
計	3名	3名	

6 基本的な利用者サービスの実施状況

近隣地域においては独居、高齢者夫婦世帯が増え、同居世帯においても家族が就労しているケースが多く、事業所の休みの日や時間外の呼び出しや相談の要望が多くあったが、利用者ニーズに応えるべく対応した。

7 施設整備

特になし

8 資金概要

事業活動収入は15,292千円、事業活動支出は18,725千円で、前年と比較し、収入は1,929千円減、支出は2,847千円減であった。職員が4名体制から3名体制に変更になったことで、利用者件数減により収入減となっている。

共同生活援助事業（介護サービス包括型）グレースホーム 2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

グレースホームは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」(障害者総合支援法)のもと障害福祉サービスの共同生活援助事業所として、キリストの教えに基づき利用者が地域において共同して自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう共同生活住居において入浴・排泄及び食事の介護、相談その他の日常生活上の支援または援助を行うことを基本方針として事業を実施した。現在18名の利用者が4つの共同生活住居で地域生活を送っており、支援にあたっては世話人同士が共通認識を持ち互いに連携を密にして質の高い生活が提供できるよう、大きく分けて次の4項目に重視して取り組んだ。個別支援計画に基づいた支援、「日中活動の場」との連絡調整、健康管理体制の強化、安全管理体制の強化（全体達成度90%）

2 新規実施事項

事業計画にはなかったが4月に施設長配属となり事業の見直しを行い、新規実施事項として下記の事に取り組んだ。

(1) 入所率100%を目的とした事務所移転と空所の体験利用（地域貢献）を実施

①10月事務所の移転実施

定員20名ではあるが、長年事務所として1室使用していた為満床になることはなかった。地域ではグループホーム不足もニーズの一つに取り上げられているため、事務所を移転し、相談支援事業所等に空所案内を行い20名満床になる体制を整えた。

②体験（短期）入所の実施

事務所移転に伴い、空所を利用し地域貢献の一環として体験（短期）入所の案内を相談支援事業所と連携をとり実施。2019年度の入所へと繋ぐ。

(2) 法人外の他施設、他事業所との関わりを高める

①君津圏域グループホーム連絡協議会への積極的な参加と相談事業所との連携の強化
協議会の参加を積極的に行い情報交換や行事に利用者と共に参加した。また、体験入所・本入所等にあたり相談支援事業所との連携を密に行う。

(3) 行政・家族とのスムーズな連絡調整を図る目的として携帯電話を購入する。

3 繼続実施事項

2017（平成29）年度から引き続き下記の事項を実施した。

(1) 支援体制

個別支援計画を基に本人と具体的な支援計画を策定し個別の支援目標や具体的な支援方法を確認し支援にあたった。支援にあたっては月1回の世話人会議を通し、情報を共有、連絡を密にしサービスの質の向上を図った。

(2) 「日中活動の場」との連絡調整

利用者の日中活動は多岐にわたっており、職場・地域活動支援センター・就労継続支援事業所等の関係事業所と密接な連絡・連携を図り、利用者が安心して地域生活を送ることができるよう支援に努めた。

(3) 保健・医療関係

①利用者の傾向として、慢性疾患・精神科薬服用など健康面での配慮を必要としている者が大半である。また、利用者の加齢化にともない、健康状況の的確な把握がより一層重要になってきている。体調の変化など見過ごすことなく日々の健康管理にあたり、地域生活が継続できるよう支援にあたった。

②服薬に関して誤薬・服薬忘れは無かったが、セット等に関し間違いが発覚。ヒヤリハットにて都度対策・周知を行ったが、3度のミスにより軽微不適合として再度周知徹底を行う。

(4) 余暇活動

利用者本人の希望や要望に応じて土曜日・日曜日・祝日などに外出等を計画した。また、グレースホーム全体での旅行や花見・外食会などを企画し、各共同生活住居間の連携を深めると共に、よりよい人間関係の構築に向けて支援にあたった。

(5) 家族との連携

法人や関係事業所などの会報・行事等の連絡を送付し、行事については、できる限り参加を要請し家族との関係が希薄にならないよう努めた。また、事故や病気等があった場合も連絡を入れることとし、必要に応じ協力を依頼した。

(6) 防災関係

災害時において、避難誘導等の対応ができるよう普段から所在・要援護の状況等を把握しておくとともに防災訓練等を実施し利用者の防災意識の高揚に努めた。

① 緊急連絡網の作成と連絡網訓練（2回）の実施

② 避難訓練の実施（年間4回）

③ 各共同生活住居の消化器の定期点検の実施

4 定員及び利用者数

定員20名 現員17名（2019年3月31日現在）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	18	18	18	18	18	19

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	稼働率
利用者数	19	19	18	19	18	17	93%

※9月1名入所・1月31日付1名退所(家庭復帰)・2月28日付1名退所(高齢施設へ)

5 職員体制

(2019年3月31日現在)

() 非常勤再掲

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
施設長（兼世話人）	1		
管理者		1	常勤（兼務）
管理者(兼)サービス管理責任者	1		常勤（専任）
サービス管理責任者（兼） 世話人・生活支援員		1	常勤（専任）
世話人・生活支援員	8(6)	10(7)	常勤（専任） 非常勤（専任）
計	10(6)	11(7)	常勤（兼務）2名 非常勤退職1名

※上記の他に夜間従事者（宿直職員）として4名配置

6 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施行事

月	行事	事務等
4月	(8日)花見会 (14,15,21,22)グループ外出	アセスメントシート作成
5月	(3~6)GW帰省 (3,19)グループ外出 (6)バーベキュー昼食会	個別支援計画作成 (29)千葉市稻毛区支援区分認定調査
6月	(2)望みの門バザー	障害福祉サービス利用者負担上限月額見直し申請

	(12,13,17,18)グループ外出	家賃補助申請（富津・木更津・袖ヶ浦・市原・いすみ・匝瑳・目黒) 重度心身障害者医療費申請
7月	(7~8)親睦一泊旅行 (11)避難訓練 (13)君津圏域 GH 等連絡協議会「利用者会」	家賃補助申請（千葉市） (13)千葉市花見川区支援区分認定調査
8月	(12~15)盆帰省 (13,18)グループ外出 (15)帰省残留者食事会	(21)市原市・いすみ市支援区分認定調査 (24)後見人弁護士定期面談 (30)木更津市支援区分認定調査
9月	(15,17)グループ外出	家賃補助申請（富津・木更津・袖ヶ浦・市原・いすみ・匝瑳・目黒・柏・松戸） (3)匝瑳市支援区分認定調査 (21)富津市障害支援区分認定調査
10月	(6)地域交流スポーツ大会 (8,13)グループ外出	個別支援計画モニタリング 自立支援通院受給者証申請 運営費補助金申請（木更津市・市原市） 第4グレースホーム 1名利用契約 (4)柏市支援区分認定調査 (29)目黒区支援区分認定調査
11月	(3)かずさの里感謝祭 (8,11,16)グループ外出 (21)避難訓練 (22)望みの門学園 OB 会	家賃補助申請（千葉市） (19)富津市療育手帳更新調査
12月	(7)合同クリスマス会 (14)忘年会 (22,24)グループ外出 (29~)年末帰省	家賃補助申請（富津・木更津・袖ヶ浦・市原・いすみ・匝瑳・目黒） 自立支援通院受給者証申請
1月	(~4)年始帰省 (2~3)帰省残留者一泊旅行 (14,19)グループ外出	自立支援通院受給者証申請 第1グレースホーム 1名利用契約解除
2月	(21)避難訓練	運営費補助金申請（富津・木更津・市原） 確定申告 第3グレースホーム 1名契約解除
3月	(8,12,15,21)グループ外出 (31)花見会	個別支援計画モニタリング 家賃補助申請（富津・木更津・袖ヶ浦・市原・いすみ・匝瑳・目黒・柏・松戸・千葉） 自立支援通院受給者証申請
備考 *誕生会（各グレースホーム対応） *利用者・職員検便（指定日対応）		

(2) 日課表

時間	平日の流れ	休日の流れ
7：30	離床 血圧測定・身支度・洗面	離床 血圧測定・身支度・洗面
8：00	朝食（服薬）・歯磨き 排泄	朝食（服薬）・歯磨き 排泄

8 : 3 0	日中活動へ出発 *就労継続支援B型事業所 *地域活動支援センター *就労 通院	自室掃除
1 0 : 0 0		余暇活動 ・外出・散歩・礼拝 自由時間
1 2 : 0 0		昼食(服薬)・歯磨き 自由時間
1 4 : 0 0		入浴
1 5 : 0 0		おやつ
1 5 : 3 0	日中活動より帰宅 おやつ 入浴・洗濯 日中活動準備 自由時間	自由時間
1 8 : 1 5	夕食(服薬) 歯磨き 自由時間	夕食(服薬) 歯磨き 自由時間
2 0 : 3 0	就寝前服薬	就寝前服薬
2 1 : 0 0	就寝準備 消灯	就寝準備 消灯

(3) 健康管理

月	健康管理
4月	(5) 君津中央病院定期通院 (18) 木更津病院定期通院 (20) 鮎澤耳鼻咽喉科定期通院
5月	(1,2) 法人健康診断 (16) 木更津病院定期通院 (23,24) 富津市特定健診 (28) 大佐和分院眼科定期通院
6月	(18,25) 法人健康診断(医師による診察) (13) 木更津病院定期通院
7月	(11) 木更津病院定期通院 (17) 東病院定期通院 (25) 鮎澤耳鼻咽喉科定期通院
8月	(8,28) 帝京大学ちば総合医療センター定期通院 (8) 木更津病院定期(代理)通院 (21,27) 東病院定期通院
9月	(5) 木更津病院定期通院 (12) 大佐和分院眼科定期通院
10月	(3) 木更津病院定期通院 (17) 鮎澤耳鼻咽喉科定期通院 (19,29) 東病院定期通院 (31) 大佐和分院眼科定期通院
11月	(12,14) 富津市乳がん集団検診 (14,21) 法人インフルエンザ予防接種 (19,20,27,29) 子宮頸がん検診 (9,20) 東病院定期通院 (28) 木更津病院定期通院
12月	(13) 大佐和分院眼科定期通院 (18) 帝京大学ちば総合医療センター定期通院 (19) 木更津病院定期通院

1月	(15) 君津中央病院定期通院 (23) 木更津病院定期通院 (25) 鮎澤耳鼻咽喉科定期通院
2月	(6) 帝京大学ちば総合医療センター定期通院 (15) 大佐和分院眼科定期 (21) 木更津病院定期通院 (25) 東病院定期通院
3月	(18) 帝京大学ちば総合医療センター定期通院 (18) 大佐和分院眼科定期通院 (20) 木更津病院定期通院
備考	日常支援：その他通院付添い、血圧管理、服薬管理

7 施設整備

10月事務所移転に伴い家賃月額25,000円が新規支出として今後継続される。

8 資金概要

事業活動収入は37,869千円、事業活動支出は36,813千円、資金収支差額1,056千円であった。

満床計画の為の事務所移転による支出の他、施設長の配属により人件費増が大きく影響している。

地域活動支援センターⅡ型事業 望みの門ヨカデイサービスセンター 2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

地域活動支援センターⅡ型としての「望みの門ヨカデイサービスセンター」は、障害者総合支援法のもと、キリストの教えに基づき、地域において雇用・就労の困難な在宅障害者に対し、創作活動の機会の提供や社会との交流促進等、機能訓練・社会適応訓練を行うことを目的として運営している。利用者の自立促進、生活の質の向上および生きがいを高めるため、利用者の状況・能力およびその置かれている環境に応じ、入浴・食事・排泄等日常生活上の支援、創作活動の機会の提供、機能訓練、社会適応訓練、レクリエーション等を通して身体能力の維持・向上するためのサービスの提供に努めた。（達成度73%）

2 新規実施事項

特になし

3 繼続実施事項

（1）食事

楽しい食事場面となるよう雰囲気づくりを行うとともに、利用者個々にあわせた食事量の調整を行った。刻み食の提供についても個々の咀嚼の状況に合わせた大きさに刻み誤嚥防止に努めた。

（2）入浴

入浴時間を午前中に設定し、ゆとりのある入浴支援を心がけた。今年度は手術を行った利用者もおり状態に合わせた入浴を行うなど細かく配慮した。また、体調によって入浴できない利用者については、清拭などの対応を図った。

（3）排泄

排泄において介助を要する利用者には、排泄の間隔を把握しトイレ誘導を行うなどの支援を行った。また、洗浄機能付き便座を利用して清潔に保つことができるよう配慮した。

（4）対人関係

支援者が関係調整を行い、利用者が相互に良好な関係が保てるよう配慮した。

（5）創作活動

個々が興味をもって取り組める折り紙や切り絵・貼り絵、ビーズ手芸・学習ドリルなどの活動の材料を提供し、楽しく活動に参加できるよう取り組んだ。

（6）社会適応訓練

外出ではお花見や紅葉狩りなど季節の行事を楽しみ、外食では公共のマナーを学ぶ機会を提供した。また、昼食やおやつ作りでは、前日に買い物へ出かけ食材を選び購入することで調理が苦手な方も積極的に参加できる場面を設けた。調理の場面では共同作業を行い、社会性を身につけながら楽しく参加できるよう努めた。

(7) レクリエーション

利用者が楽しんで参加できるよう夏祭りやクリスマス会・新年会などを企画し実施した。

(8) 機能訓練

毎日ラジオ体操や菜の花体操・ストレッチなどを行い、散歩ができない日には、室内ウォーキング・踏み台昇降などを取り入れ身体機能の低下を防止した。

また、食事の前には嚥下体操を行い誤嚥防止に努めた。

(9) 健康管理

通所時のバイタルチェックや視診、連絡帳からの引き継ぎ等から日々の健康状態の把握に努め、感染症防止のためうがい・手洗いの励行やドアノブや手摺り・床など毎日消毒し衛生管理の徹底を図った。また、発熱などの急な体調不良などがあった場合は、健康管理室等に連絡しアドバイスを受け適切な対応に努めた。

4 定員および利用者数

定員 15名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	53%	52%	53%	53%	52%	52%

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
稼働率	53%	52%	52%	50%	46%	48%	51.2%

5 職員体制

() 内非常勤再掲

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
管理者(兼)指導員	1	1	常勤(兼務)
指導員			
介護員	1	1	常勤
計	2	2	

6 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施行事

月	行 事 内 容	事務等内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・花見（4）・外食会（12） ・買い物外出（19, 25） ・調理実習（20）・おやつ作り（26） 	市町村委託契約締結 機関誌発行
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・いちご狩り（8）・外食会（23） ・買い物外出（17, 30） ・調理実習（18）・おやつ作り（31） 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・お楽しみ昼食（4）・外食会（7） ・買い物外出（14, 27）・調理実習（15） ・おやつ作り（誕生会）（28） 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕の集い（6）・外食会（12） ・買い物外出（18, 25）・おやつ作り（19） ・調理実習（26）・夏祭り（28） 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・外食会（2）・納涼祭（誕生会）（24） ・買い物外出（9, 29）・避難訓練（15） ・調理実習（10）・おやつ作り（30） 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・外食会（12）・おやつ作り（25） ・買い物外出（4, 24） ・調理実習（6）・お楽しみ昼食（17） 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流スポーツ大会（6）・外食会（4） ・買い物外出（9, 24）・調理実習（10） ・お楽しみ昼食（11, 12）・おやつ作り（25） 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・かずさの里感謝祭（3）・外食会（20） ・買い物外出（8, 15）・調理実習（9） ・おやつ作り（誕生会）（16）・紅葉狩り（26） 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・合同クリスマス会（8）・外食会（5） ・買い物外出（13, 20）・誕生会（14） ・ヨカクリスマス会（24）・調理実習（21） 	機関誌発行
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年会（5）・外食会（16） ・買い物外出（9, 28） ・調理実習（10）・おやつ作り（29） 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・節分（1）・誕生会（15, 22） ・買い物外出（14）・調理実習（5） ・避難訓練（19）・お楽しみ昼食（13） 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・お楽しみ会（15）・食事会（16） ・買い物外出（5, 13, 27）・調理実習（5） ・おやつ作り（28） 	

(2) 日課表

時 間	一 日 の 流 れ
8 : 3 0	
9 : 1 0	来 所・うがい・手洗い バイタルチェック (体温・血圧・脈拍)
9 : 4 0	入 浴 創作活動・音楽・D V D鑑賞
1 1 : 3 5	手洗い 嚥下体操
1 2 : 0 0	昼食・服薬・片付け
1 3 : 3 0	機能訓練(ストレッチ)・散歩 踏み台昇降・創作活動
1 5 : 0 0	手洗い・おやつ ラジオ体操・菜の花体操
1 6 : 0 0	帰 宅
1 7 : 3 0	

(3) 健康管理

月	健康管理
5月	健康診断(2)
11月	インフルエンザ予防接種(21)

※日常支援：血压管理、体温管理、服薬管理

7 施設整備

特になし

8 資金概要

事業活動収入は11,607千円、事業活動支出は10,922千円で、2017年度と同水準である。

指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業 望みの門ベテル 2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

望みの門ベテルは、障害者総合支援法のもと、キリストの教えに基づき利用者がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう必要な相談支援サービスの提供を通じて、利用者の充実した社会生活の保障を基本方針として事業運営を行った。事業の実施にあたっては、利用者の意志及び人格を尊重し常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めるとともに利用者の心身の状況、その置かれている環境に応じて利用者の選択に基づき福祉サービス等が総合的かつ効率的に提供できるよう取り組んだ。2017年度に引き続き袖ヶ浦市、木更津市、君津市、富津市の4市社会資源のひとつとして認知されるよう努めた。法人内の施設・事業所との連携はもとより、各相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、障害者総合支援協議会等との連携体制の確立に努めた。特に定期的に参加した富津市相談支援事業所連絡会では、ケース研究や情報交換を行い事業所間相互の連携を図った。また、今年度から外部の相談支援を再開し地域における身近な相談支援事業所として機能した。（達成率90%）

2 新規実施事項

特になし

3 継続実施事項

2017（平成29）年度から引き続き、下記の事項を実施した。

（1）サービス利用支援

利用者等との面接やサービス提供事業者との連絡調整を行い、サービス等利用計画を作成した。

当初の登録者は51名であったが外部からの相談を再開したことにより3月には登録者が60名に増加し、サービス利用計画・モニタリングの作成件数が増加した。

①サービス等利用計画作成

- ・サービス内容等に関する情報提供
- ・アセスメント
- ・サービス等利用計画案の作成
- ・サービス等利用計画案の説明・交付
- ・サービス担当者会議の開催
- ・利用者等への説明
- ・サービス等利用計画の交付

（2）継続サービス利用支援

- ①モニタリング
- ②サービス等利用計画の変更
- ③入所施設等への紹介又は地域生活への移行に関する情報提供の援助

グループホームへの入居3件。グループホーム短期入所1件。在宅サービス利用1件。家族の介護相談1件。特別支援学校卒業後の進路策定3件と相談内容も多岐に渡った。

4 定員及び利用者数

- (1) 指定利用サービス支援（利用計画作成） 45件（2017年度30件）
- (2) 指定継続サービス支援（モニタリング） 98件（2017年度93件）

5 職員体制

() 内非常勤再掲

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
管理者(兼) 相談支援専門員	1名	1名	常勤（兼務）
計	1名	1名	

6 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施事項

	計画・モニタリング作成数		備考
	計画	モニタリング	
4	0	7	相談支援事業所連絡会（12）
5	0	4	君津特別支援学校福祉機関相談会（17）
6	1	2	相談支援事業所連絡会（22）
7	5	11	君津特別支援学校福祉機関相談会（23）
8	3	16	相談支援事業所連絡会（17）
9	4	12	相談支援事業所連絡会（20）
10	8	12	相談支援事業所連絡会（25）
11	1	4	相談支援事業所連絡会（15）
12	0	2	相談支援事業所連絡会（20）
1	1	10	君津特別支援学校福祉機関相談会（7）
2	14	6	相談支援事業所連絡会（14）
3	0	12	相談支援事業所連絡会（14）

7 施設整備

特になし

8 資金概要

事業活動収入は1,629千円となり今年度行われた報酬単価の改定が影響している。事

業活動支出は担当職員の変更により 8,150 千円と例年度と比べ大幅な支出超過となっており、サービス区分間繰入金で対応しているのが実情である。外部計画相談を再開し担当するケース数は増えたものの報酬単価の改定による影響は続き、今後も新規利用者の獲得や新たな加算等を検討しながら対応していきたい。

児童養護施設 望みの門かずさの里 2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

望みの門かずさの里はキリストの教えに基づき、子どもの安心・安定した生活、養育の確保に努めた。また改正児童福祉法、「都道府県社会的養育推進計画」の策定等の主旨・動向を踏まえ、当施設の実践(障がい等を抱えた児童の多数受け入れ)をもとに、今後のあり方を研究する一年とした。

現大舎内でのユニット運営も安定し、自立に向けた生活の更なる充実と養育支援のより個別化に努めた。2017(平成29)年度に完成した二つ目の別棟ユニットも円滑に運営され、総体的に子どもの成長と自立に繋がった。しかし、子ども個々への厚い支援体制、課題を抱える児童への更なる個別対応の実践は、これまで同様に職員確保が困難で進まず取り組みとして課題を残した。

また当該年度(2018)は卒園児5名且つ内3名が知的障がい等を抱える児童(特別支援学校卒業)であり、進路決定・自立準備等に多くの支援を必要とした。改めて当施設の障がい等を抱えた児童への特化した取り組みを支える機能・体制強化を整理したい。

職員に求められるスキルは、質量共により高度化の一途であり、メンタルヘルスを含めた職員間の連携、チームワークの充実がより一層求められたが、具体的な成果は見られなかった。同時に運営の根幹となる人材の確保・育成は、新卒従事者の確保がより厳しい状況にあり、地域関係者・当施設職員関係者をもとに活動し微少の成果を得た。

【児童養護施設としての実践課題の結果】

(1) 子どもの人権擁護と利益を守る～職員の倫理・援助スキルの向上(達成度 60%)

- ①子どもの気持・主張を聴く。
- ②一人ひとりが思い・意志を表明できる機会をつくり、自己決定を尊重する。
- ③一人ひとりの個性・成長に応じて諭す。)
- ④一人ひとりが生活を創り営むことが実感できるように～子ども会議等の充実。

(2) 養育・自立支援 (達成度 60%)

- ①個別自立支援計画に基づいた適切な支援～個別的な対応の充実
- ②基本的な生活習慣の確立～日常行動の自律性を高める
- ③年齢・成長に応じた社会性・マナーの習得
- ④豊かな食生活の確立～食卓環境の充実

(3) 支援体制と職員の連携 (職員数の確保ならず達成度 50%)

- ①職員全体で一人ひとりの子どもたちを養育支援することを基本とした上で、ユニット毎の職員主担当者を定め支援にあたる。(非固定制)
小規模GCの管理宿直等職員(非常勤)は、原則として日中活動支援のみとする。
- ②各会議等(職員会議及び、調理部会・給食運営会議、各ミーティング等)を通し、養育支援のあり方、職員個々の役割など共通理解を図る。

(4) 関係機関との連携 (達成度 70%)

- ①児童相談所等と連絡・連携を密にする。
- ②幼稚園・学校関係(小・中・高・他)と日常的な連携を密にする。また定期的な連絡会議を行う。

(5) 家族・保護者等との関係 (達成度 70%)

- ①児童相談所等との連携をもとに、連絡・面会・帰宅等を促進する。
- ②配置した家庭支援専門相談員による家族支援に努める。

③里親ふれあい家族の利用を検討実施する。(個別状況に応じ、夏季・冬季での宿泊)

(6) 地域等との関係 (達成度 60%)

- ①子ども、大人(職員)共に地域住民として、積極的に地域活動に参加する。
- ②感謝祭等をもとに、里からの係わりを進める。 (
- ③個々のボランティア等との連携を深め活用する。

2 重点計画

児童福祉法の一部改正(2016～2017年度)により、理念の明確化(健やかな成長、発達や自立等の保障)がなされ、「良好な家庭的環境」(第3条の2)とは、施設のうち小規模で家庭に近い環境(小規模グループケアやグループホーム等)を指すと示された。これらの主旨を踏まえ、2018年度は新設された別棟ユニットを中心に、住環境の充実を図り、心地良い暮らしをより追求した。

(1) ユニットの充実(小規模グループケア) (達成度60%)

「幼児(6名)、縦割り男児学童(5～6名)、縦割り女児学童(5～6名)等の6グループ編成で実施。少人数で生活リズムのより安定と生活力の向上に努めた。子ども同士、職員とのより個別的な関わり合いの中で、愛着形成を含めより健全な育成となる環境を整えることができた。しかし、有効的な職員体制を隨時検討することも課題としてきたのだが、支援や体制の成果の検討・確認をする機会が乏しかった。

(2) 特別支援学校卒業後の進路の検討及び就労支援の検討(支援に苦慮し達成度 50%)

特別支援学校高等部の在籍児童は4名(2017年4月1日より)であり、個々に応じた進路の策定は大きな課題であった。障害者総合支援法等でのサービス利用の理解を深め、関係資源(知的障害者福祉関係)と連携し、就労・生活の場の確保に向けた支援業務の充実を図ることが課題であった。特に、個々の葛藤(進路選択・課題の直面化・自己受容の繰り返し)に対する支援と計画的な福祉サービスの利用が求められた。

2 新規実施事項

特になし

3 継続実施事項

(1) 小学校・中学校との定期連絡会 [学期毎に1回]

子ども一人ひとりの個性、長短所・課題等を確認し合い、学校生活と里での養育が一対となり、個別支援の充実に繋がるよう努めた。また、日常の連絡連携のあり方を確認した。特別支援学級への在籍児童の増加、情緒面に課題を抱える子どもへの対応など、連絡会の重要性がより高くなっている。

(2) 心理療法の実施

心理療法担当職員により、個々の子どもの心理状況、ストレス等の把握をもとに、年少児を中心に心理療法を行った。また職員会議等にて分析の共有化を図った。

(3) 自立生活体験指導～自立支援室(自活ユニット)の取り組み別棟の自立支援室を利用し、高校年生3名が年間を通して段階的なカリキュラム作成し、社会生活に向けた個別生活指導・支援を行った。

4 定員及び利用者数

定員 35名 [協定定員：千葉県措置定数：35 千葉市措置定数：0]

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	94%	100%	100%	100%	100%	97%

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
稼働率	97%	97%	97%	100%	100%	100%	98.5%

5 職員体制

() 内非常勤再掲

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
施設長	1名	1名	
事務員	1名	1名	年度途中退職者 1 採用 1
児童指導員(基準職員)	5名	12名	年度途中退職者 1 異動 1 採用 1
保育士(基準職員)	5名		
家庭支援専門相談員(基準職員)	2名	2名	
個別対応職員(基準職員)	1名	1名	
心理士	1名	1名	
年長児特別指導員(加算職員)	(1)名	(1)名	
小規模 GC 専任職員(加算職員)	5名	5名	
小規模 GC 非常勤職員(加算職員)	(6)名	(5)名	
調理員(4名は基準職員)	3(2)名	3(2)名	
栄養士	0名	(1)名	
計	23名(9)名	26名(9)名	

6 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施行事

月	実施行事	事務等
4月	4日花見	*毎月誕生日会
5月	3~5日GW外出	
6月	2日法人バザー	
7月		
8月	2~16日ユニット外出、21日千児協球技、14日湊灯籠流し	
9月		9/15里広報誌発行
10月	6日法人地域交流スポーツ大会 / 7日地域祭礼	
11月	3日里感謝祭	
12月	8日法人クリスマス会、24日里クリスマス会、餅つき会	
1月	3~5日正月外出	1/15里広報誌発行
2月	3日千児協マラソン大会(中止)	
3月	22日卒園の会	

(2) 児童の生活リズム（平日）

時間	学童 内容	時間	幼児 内容
6:00	離床（休日 7:00）	6:00	離床（休日 7:00）
6:30	朝食（休日 7:30）	7:00	朝食（休日 7:30）
7:15	小学登校	8:20	小学登校
7:30	中学登校		
15:00	下校	14:50	降園
17:00	学習・自由時間	16:00	自由
18:00	夕食 入浴 自由時間	18:00	夕食 入浴
21:00	就寝（高校生 22:00）	20:00	就寝

(3) 健康管理

子どもたちの健全な成長は、日々の心身の健康にある。衛生面の徹底をはじめ疾病、感染症等の予防と共に、心のケアを重視し健康管理にあたった。

①食事支援～偏食への指導支援

楽しい食事を基本とする中、著しい偏食を抱える子どもには、アレルギー等の有無を確認しつつ、調理方法等に工夫をこらし改善に努めた。

特に学童については、本人の自覚を促しながら自助努力を促したことにより、個々に応じた改善が図られてきている。

②定期健康診断及び予防接種

健康診断については、年2回(5月・10月)実施した。また予防接種の実施含め、情報に留意し対応した。通常のインフルエンザワクチン接種は、子ども2回、職員1回とした。11月から3月まで衛生面強化として取り組み、インフルエンザの感染等は極少人数に留まった。またノロウイルス感染対策として3ヶ月間(1～3月)徹底予防に努めた。

③自己管理の支援

特に高学年の子どもたちには、衣類の調節をはじめ体調不良時の申し出、ヘルプコールのしかた、また疾病予防等の知識が身につくよう支援した。

④心のケア

子ども一人ひとりの日々の表情、態度から、ストレス、悩み等の現れを把握し、柔軟に対応しながらケアにあたった。

(4) 食育

①献立及び環境

子どもたちの希望、調理担当職員及び指導員等の意見をもとに、栄養士（指導員が資格有）による献立を基本とした。今後も栄養のバランスはもとより、家庭的なメニューを考慮していきたい。ユニットの中、より季節感、食材に応じた食器等の使用をはじめ、豊かな食生活、食卓となるよう努めた。夕食は、とりわけマナーや暮らしについて、楽しく会話をする時間が保たれることを重視した。

7 施設整備

特になし

8 資 金 概 要

(1) 特記すべき補助金事業申請

職員の資質向上のための研修事業補助金 391千円

(2) 運営費収支

事業活動収入は227,341千円（2017年度より5,228千円増、主として事務費
人件費分として増額） 事業活動支出は187,542千円（2017年度より7,897
千円増、主として人件費分として増額）

(3) 積立金

建物の建替え等に備え、建物建設積立金15,000千円を実施。

乳児院 望みの門方舟乳児園

2018（平成30）年度事業報告

1、事業概要

望みの門方舟乳児園はキリストの教えに基づき、神の似姿に創造された幼児の生命をかけがえのないものとして尊重し、その尊厳を守り育てる。好き嫌い等自分の意思を十分に伝えられない幼児を社会の一員として認識し、これを無条件に受容し最適なサービスを提供する。養育者は人権の擁護者として、業務を遂行すると共に、少子化社会進展の重大性に鑑み次世代育成支援に努めた。また、「新しい社会的養育ビジョン」への理解と実現のために現場や関係機関と議論を重ねた上で、事業運営に努めた。（73%）

- (1) 利用者の養育 ⇒実施。（100%）
- (2) 利用者の適切な保護及び育成 ⇒人員的な問題が原因。（90%）
- (3) 良き生活習慣の獲得 ⇒職員育成的な問題が原因。（90%）
- (4) 家庭生活の重視 ⇒人員的な問題が原因。（80%）
- (5) 職員資質の向上 ⇒研修参加等が難しかった。（80%）
- (6) 関係機関との良好な関係構築 ⇒職員育成の問題が原因。（80%）

2、新規実施事項

新規実施事項として以下のことを取り組んだ。

- (1) 作業の効率化とPCでの記録の一括管理
⇒業者等の打合せがうまくいかず年度中に達成ができていない。（30%）
- (2) 新しい社会的養育ビジョンの理解と取組内容の検討
⇒施設内のみならず県、同業者間での意見調整を図ることができた。（70%）
- (3) 業務のスリム化と余力のある働き方の工夫
⇒人員配置、育成が予定通り進まなかつたため業務のスリム化が実現していない。（40%）

3、継続実施事項

2017（平成29）年度から引き続き、下記の事項を実施する。

- (1) 家庭復帰及び里親優先推進
⇒家庭復帰に際し、訪問調査及び、退所後のフォローを実施。
里親委託が適當なケースを児相へ打診するがほとんど理解を得られなかつた。
- (2) 献金・献品の申し出に、礼を尽くした対応 ⇒継続。
- (3) 法人内の他施設と連携、婦人保護施設利用者の就労支援向上に寄与 ⇒継続。
- (4) 広報誌発行、施設情報を地域、行政機関等へ発信 ⇒実施。
- (5) 地域ボランティアの積極的受入 ⇒年度末から調整し次年度から始動予定。
- (6) 里親及び次世代人材の育成及び職場として社会的養護施設を宣伝
⇒他施設の里親専門支援員、里親会との連携を図り実施。
- (7) 各種作業手順書の改訂及び整備 ⇒継続。
- (8) 小規模グループケアの推進 ⇒人員配置の不足により未実施
- (9) 外部評価の受信及び生活環境改善 ⇒継続
- (10) 主体的業務改善と積極的相互理解のできる職場環境 ⇒実施。
- (11) 利用者、職員の生活体験の共有 ⇒実施。
- (12) 個別宿泊旅行 ⇒人員配置不足により未実施。

4、定員及び利用見込者数

定員 9名

月	4	5	6	7	8	9
稼働率	82.6	63.4	58.4	87.4	88.8	87.0

月	10	11	12	1	2	3	年間平均
稼働率	79.2	84.0	79.2	88.9	84.1	84.5	80.6

5、職員体制

() 内非常勤再掲

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
施設長	1名	1名	
家庭支援専門相談員	1名	1名	
看護師	1名	1名	
保育士	6名	6名	
調理員	1名	1名	
嘱託医	1名(1名)	1名(1名)	
小規模グループケア担当	0名	1名	加算対象
宿直等職員	2名(2名)	1名(1名)	加算対象
個別対応職員	1名	1名	加算対象
待遇改善事業			加算対象
心理職員			加算対象
その他	1名(1名)	1名(1名)	
計	16名(4名)	15名(3名)	

6、基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施行事

月	行 事	月主題・養育者の援助	事務等
4	イースター (1) 花見(18)	興味を持ち外へ出てみよう ・気温に応じた衣類の調節 ・手足の清潔 ・ポリオワクチン接種	フェンス・見晴らし台工事 自己評価実施 法人初任者研修 関東ブロック総会
5	子どもの日 (5) TDS遠足 (18)	戸外遊びで経験を広げよう ・発汗後のケア ・寝具の調節 ・健康診断、害虫駆除	理事会 機関誌発行 自己評価集計
6	バザー(2) TDS遠足 (14)	雨やカタツムリを見てみよう ・室内の環境整備 ・衣類の調節(衣替え) ・食中毒予防	関ブロ乳児院研究行議会派遣 (7, 8)
7	七夕(20) 外出	水遊び、泥遊びをしよう ・発汗後のケア	法人主査研修(24)

		<ul style="list-style-type: none"> ・水分補給 ・虫さされ予防 	
8	プール 遠足（7） 外出（14） 納涼会（27）	夏の遊びを楽しもう <ul style="list-style-type: none"> ・水分補給、休養を十分取る ・炎天下で遊ばせない ・冷房の効きすぎに注意 	HP 更新
9	遠足 お月見（24）	体を動かそう <ul style="list-style-type: none"> ・室内の風通し ・夏バテの回復を図る ・寝冷えに注意 	
10	スポーツ大会（8） ハロウィン（31）	スポーツ大会に参加しよう <ul style="list-style-type: none"> ・薄着の習慣 ・手足の清潔 ・肌荒れ予防 	スポーツ大会（木下記念学園）
11	感謝祭（3） 外出	秋を感じよう <ul style="list-style-type: none"> ・肌荒れ予防 ・予防接種 ・健康診断（感染症予防対策） 	機関誌発行
12	クリスマス会（8）	クリスマスをお祝いしよう <ul style="list-style-type: none"> ・室温、湿度に注意 ・衣類の調節 ・湯冷めに注意する 	HP 更新
1	お正月（1） 鏡開き（11）	お正月を体験しよう <ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムが崩れないように ・おせち料理を味わう 	県指導監査
2	節分（2）	寒さに負けず元気に過ごそう <ul style="list-style-type: none"> ・早朝の冷え込みに注意 ・体調を考慮して外で遊ぶ 	
3	ひな祭り（3） 外出	雛祭りと共に祝おう <ul style="list-style-type: none"> ・気温に応じて衣類調節を行う ・園庭の環境整備（花壇） 	理事会 防災訓練（派遣） ISO内部監査

その他；お宮参り、お食い初め等個々の年齢にあった伝統行事の実施

(2) 日課表

07：00～08：00	起床、整容
08：00～09：00	朝食、着替え
09：00～10：00	室内遊び（ブロック、本読み、お絵かき等）
10：00～11：30	お茶、園庭遊び（砂場、ブランコ、すべり台等）
11：30～12：30	昼食、整容
12：30～15：00	お昼寝
15：00～16：00	おやつ、室内遊び
16：00～18：00	入浴
18：00～19：00	夕食、整容
19：00～20：00	就寝準備（本読み）
20：00～	就寝

児童心理治療施設 望みの門木下記念学園

2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

望みの門木下記念学園は、キリストの教えに基づき、家庭での養育が困難な要保護児童でかつ心理的な治療が必要な子どもを受け入れ、一人ひとりの健全な養育に努めた。子ども達は、君津特別支援学校上総湊分教室に通い、施設内学級担任とは、日々綿密な情報交換を行い、適切かつ効果的な教育を受けることが出来た。2018年10月より医務監として古関啓二郎先生が着任され、精神科医療を中心とした医療機関との連携、服薬管理、心理的治療を行った。また児童相談所等と連絡・連携し、入所児童選定にあたり情報交換を定期的に実施し、順次児童の入所受入れを進めるため、木下記念学園へ最大限の協力をお願いしたが、計画通りの入所が実現出来なかつた。大きな問題は、県より暫定定員の通告を受け、国との協議を依頼した結果、2018年度は見送りとなつた。(達成度 65%)

(1) 子どもの人権擁護および利益を最優先した。

子どもの主体性を尊重し、自らの意志を表明できる機会をつくりながら自己決定を促す支援を実施した。そのため生活支援、心理、医療、教育との連携を密に図り、施設生活全般を通して心理的治療の効果的な実践を行つた。

(2) 養育・自立支援の実施

個別支援計画に基づいた適切な支援と個別的支援を行なうことで、基本的な生活習慣の確立、年齢・発達・成長に応じた社会性を身につける支援を実施した。

(3) 支援体制と職員の連携

小規模（6名単位の生活ユニット）の職員担当者を定め、個別支援を実施した。このため、職員会議、生活担当ユニット会議、心理担当者会議等を通して適切な養育支援の確認と職員個々の役割分担を行つた。

(4) 関係機関との連携

児童家庭課・児童相談所とは、対象の入所児童選定等、繰り返し情報交換を行つた。また、湊分教室の先生との日常的な連携を密にし、定期的な連絡会議を週に1回実施した。

(5) 家族・保護者等との関係

児童相談所等との連絡調整をもとに、親子面談や帰省等の関係調整を行つた。しかし家庭復帰は、親・子ども共に高いハードルで調整が難しかつた。

(6) 地域との関係

湊地区の祭礼には積極的に子ども達が参加し、灯篭流しや花火大会にも招待されて楽しむことが出来た。地域清掃に職員が参加し、地域住民との交流も出来つつある。

(7) 精神科医の着任

2018年10月より医務監として精神科の古関啓二郎先生の常勤が実現した。子どもの定期診察、緊急時の対応指示等が、不安のある職員に大きな力になつてゐる。

2 新規実施事項

(1) 子どもの興奮時の緊急対応(達成度 70%)

①緊急用ポケベルの携行

女性職員が主に所持し、緊急連絡が必要な場合、男子・女子ユニット或いは運動場等が識別できる発信音で応援を要請する。

②クールダウン室

子どもの興奮時、必要と認めた時に短時間一人で、または職員と過ごす空間を用意した。自傷の危険がある等、職員の連携で事故発生に注意する。

③生活備品の補充

テーブル・椅子の交換や電気製品、生活用品は順次補充した。

(2) 生活棟窓ガラスの交換と施設周りのフェンスの補修

未実施

3 継続実施事項

(1) 子どもの人権擁護および利益を最優先（達成度 80%）

①子どもの気持ち、子どもの主体性の尊重

②自ら意志を表明できる機会をつくり、自己決定の尊重

③一人ひとりの個性を尊重し・健全な成長と発達

④保育、生活支援、心理、医療、教育との連携を密に図り、施設生活全般を通して心理的治療の効果的な実践

(2) 養育・自立支援（達成度 80%）

①個別支援計画に基づいた適切な支援および個別の支援の充実

②基本的な生活習慣の確立

③年齢・発達・成長期に応じた社会性の習得

④豊かな食生活の確立、食育環境の充実

(3) 支援体制と職員の連携（達成度 75%）

①一人ひとりの子ども達を個別に養育支援することを基本とした上で、小規模人数単位（子ども 6 名単位の生活ユニット）の職員担当者を定めた個別支援

②各種会議（職員会議、生活担当ユニット会議、心理担当者会議、医療会議等）をとおして適切な養育支援および職員個々の役割分担の共通理解

(4) 関係機関との連携（達成度 75%）

①児童相談所等との連絡・連携

②施設内学級担任との日常的な連携を十分する。定期的な連絡会議の開催

(5) 家族・保護者等との関係（達成度 60%）

①児童相談所等との連携をもとに、親子関係の調整

②施設に配置した家庭支援専門相談員による家族支援

(6) 地域との関係（達成度 70%）

①地域の関連団体（地域子育て支援センター等）との連携により、地域の中で施設の子どもたちが見守られる体制の構築

4 定員及び利用者数

(1) 定員 30 名（通所 5 名）

受入れ学年 小学 1 年～中学 3 年（男・女）

(2) 利用者数 年間平均(13, 7 人)

月	在籍(人)	月	在籍(人)
4月	10人(男4・女6)	10月	14人(男8・女6)
5月	11人(男5・女6)	11月	14人(男8・女6)
6月	15人(男8・女7)	12月	14人(男8・女6)
7月	15人(男8・女7)	1月	14人(男8・女6)
8月	15人(男8・女7)	2月	13人(男8・女5)
9月	15人(男8・女7)	3月	14人(男9・女5)

5 職員体制(2019年 3.31 現在)

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
施設長	1名	1名	常勤
事務員	1名	1名	常勤
児童指導員	8名	8名	常勤
保育士	1名	2名	常勤
家庭支援専門相談員	1名	1名	常勤(副施設長)
個別対応職員	1名	1名	常勤
心理士	4名	4名	常勤
看護師	1名	1名	常勤
医師(精神科)	1名	1名	常勤医師 1名
調理員	3名	4名	常勤 3名 非常勤 1名
栄養士	1名	1名	常勤
スーパーバイザー	1名	1名	非常勤
計	24名	26名	

6 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施行事

4月	/6 始業式 /11 入学式	誕生会：児童毎に実施
5月	/5 潮干狩り /18 分教室遠足 /29 避難訓練	
6月	/2 望みの門バザー /21-22 中3修学旅行(箱根)	
7月	/20 終業式 /23 連絡調整会議 /25 バーベキュー大会	
8月	/9~10 キャンプ外泊 /14 湊川灯篭流し・花火大会 /19 釣り大会 /23 ジャンボプール /31 バーベキュー大会	
9月	/3 始業式 /8 湊地区祭礼・避難訓練 /30 千児協オセロ大会	
10月	/6 法人スポーツ大会 /11 湊分教室体育祭	
11月	/3 かずさの里感謝祭 /8-9 小6修学旅行(鎌倉)	
12月	/8 法人クリスマス会 /21 終業式 /23 施設内クリスマス会	
1月	/1 新年挨拶 /2 全体外出 /7 始業式 /25 県監査 /29 連絡調整会議	
2月	/2 千児協評価委員 /4-5 期末テスト	
3月	/3 ひな祭り /14 分教室卒業式 /18 須永夢羽空・出発の会 /22 終業式	

(2) 児童の日課 (平日)

7:00	7:30	8:30	14:30~15:30	18:00~19:00	21:00~22:00
離床	朝食	登校	学校	下校	学習自由 夕食入浴 自由時間 就寝

(3) 健康管理

子ども達の日々の生活は、突然の心身の不調から乱れ、健全な状態に落ち着くまでに時間と根気を要するが、着実に成長している。衛生面の徹底から感染症等の予防に努めた。

- ①古関先生の定期診察および必要に応じて服薬治療を行う。

児童家庭支援センター 望みの門ピーターパンの家

2018（平成30）年度事業報告

1 事業概要

児童家庭支援センター望みの門ピーターパンの家は、キリスト教の教えに基づき、子どもとその家庭に関する問題について、特に専門的な知識及び技術を必要とするものに応じ、技術的助言その他必要な援助を行うこと、児童相談所や市町村、地域の関係機関との連絡調整等を総合的に行い、子どもとその家庭の福祉の向上を図ることを目的とした事業を実践した。児童家庭支援センターで取り扱う相談は、専門的な知識及び技術を必要とするものであり、重篤な相談も多く、関係機関と連携し、横断的な支援体制を構築することが重要であった。また、家族関係や学校生活、友人関係、地域生活等を多角的な視点で捉え、専門的なアセスメントに基づいて支援してゆくことが求められた。ピーターパンの家では、親子に同時に働きかけることができる児童家庭支援センターの特色を生かした多角的な支援の構築を目指し、実践した。（達成度 90%）

（1）地域での子育て支援機能の充実（達成度 90%）

2017 年度より継続しているフリースペースは前年とほぼ同様に利用があった。一方で、小さなスペースでの活動であるため、1 回の利用者が増加すると、事故のリスクや窮屈さ等の不満が出るため、次年度に工夫していきたい。2018 年 9 月より富津市役所内のなかよし（親子ひろば）への訪問を開始したこと、天羽地区以外の親子と出会う機会に恵まれた。また 2016 年度より継続している富津市主催の子育て講座も 2018 年度も継続した。ピーターパンの家の職員が講師となり、座談会形式での講座とし、好評を頂いた。これらの活動を通して、利用の窓口を広げ、新たな利用者の獲得に繋がった。

（2）相談支援の充実（達成度 80%）

ピーターパンの家では、来所者に対し、実施可能な心理・発達検査や心理療法、ペアレントトレーニング等を行っており、定期的に来所する親子が増加している。特に 2018 年度に力を入れたいと考えていた①精神疾患を抱える親子への支援、②学童期の療育的支援、③地域の社会資源の活用については、①医療機関との連携強化、②心理的学習教材（怒りのワーク等）の作成、③地域の専門機関との連携強化によって実践した。

（3）関係機関との連携強化及び新たな専門機関との関係構築（達成度 100%）

児童相談所、市町村、地域の関係機関についてよく理解し、良好な関係を築くことに重点を置いて、今までの関係機関との連携を強化し、更に新たな専門機関との関係構築を図ったことで、関係機関との連携数が前年比 2.6 倍となった。特に富津市との連携が強化され、2019 年度より富津市市役所内に出張所が設置されることになった。

2 新規実施事項

新規実施事項として以下のことに取り組んだ。

（1）公用車の購入（達成度 90%）

公用車（中古）を購入し、増加している訪問支援に対応した。費用は、予算 500 千円のところ、300 千円超過の 800 千円となった。

（2）施設内整備（達成度 100%）

フリースペースの開催に伴い、利用が増加している乳幼児向けに、衛生・安全の管理や感染症予防の観点からトイレ用おむつ替えシートと幼児用補助便座を設置した。費用は予算 300 千円のところ、60 千円となった。